2026年度

大学院
入学試験要項

文化創造研究科

教育学研究科

心理医療科学研究科

健康栄養科学研究科

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

ビジネス研究科

愛知淑徳大学

目　　次

■ 大学院アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）…… 1
■ 研究科別アドミッション・ポリシー …… 1
■ 研究科別各専修概要 …… 5

Ⅰ 博士前期課程（修士課程）
1 募集人員 …… 8
2 試験日程 …… 8
3 出願資格 …… 8
4 出願手続 ……12
5 出願時の注意 ……13
6 選抜方法・配点・試験時間割 ……14
7 試験会場 ……16
8 備考 ……17

Ⅱ 博士後期課程
1 募集人員 ……18
2 試験日程 ……18
3 出願資格 ……18
4 出願手続 ……20
5 出願時の注意 ……21
6 選抜方法・配点・試験時間割 ……22
7 試験会場 ……22

Ⅲ 全課程共通
1 入学検定料払込方法 ……23
2 受験票・写真票について ……24
3 試験会場（星が丘キャンパス）案内 ……24
4 合格発表・入学手続 ……24
5 受験上および修学上の合理的配慮 ……26
6 問い合わせ先 ……26

Ⅳ 研究科別特記事項
文化創造研究科 ……27
心理医療科学研究科 ……28
健康栄養科学研究科 ……36
グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 ……37
ビジネス研究科 ……37

Ⅴ 学納金 ……39
Ⅵ 奨学金 ……42
Ⅶ 長期履修学生制度 ……43
Ⅷ 成績開示について ……43
Ⅸ 入試結果 ……44
Ⅹ 過去の入試問題について ……44

不正行為の取り扱いについて
入試に関する生成AI（ChatGPTなど）の取り扱いについて

個人情報の取り扱いについて

愛知淑徳大学では、個人情報は「個人情報の保護に関する法律」に基づいて、厳重に管理します。

出願に際してお知らせいただいた氏名、住所、電話番号、その他の個人情報は、志願者への連絡や、入学試験用データとして利用します。これらの個人情報は、愛知淑徳大学に入学された後、入学者用データとして、教学および大学生活全般に関する業務ならびにこれらに付随する業務をおこなうために利用します。また、愛知淑徳大学関連団体がおこなう同様の業務のためにも利用します。

なお、これらの業務は、愛知淑徳大学および愛知淑徳大学関連団体より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」といいます）においておこなう場合があります。この業務委託にあたり、受託業者に対して、委託業務を遂行するために必要となる範囲で、お知らせいただいた個人情報の全部または一部を提供することがあります。あらかじめご了承ください。

大学院アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

愛知淑徳大学は、「違いを共に生きる」を理念として掲げ、性別、国籍、年齢、異なった能力など、さまざまな違いをもつ者が共に学ぶ環境づくりに努めている。その環境の中で繰り広げられる多彩な教育・研究活動を通じて、広い視野と深い思考力を身につけ、時々刻々と変化する現象に対する洞察力と時代を先取りする先見性を獲得し、さらに、新たな価値の発見とその普及のための優れた実践力が養成されている。このような伝統を継承し、さらに推し進めるための学生受け入れ方針として、多様な入試制度を導入している。

大学院は高度な教養による自己実現能力、高度な知識・技能による専門的職業能力もしくは高度な学識による専門的研究能力を培うことを目的としているが、「違いを共に生きる」という教育理念は学部と共通である。そのために、博士前期・修士課程においては、専門領域の学力、研究計画および適性（面接）試験による一般入試、社会人および外国人留学生を対象として行う特別選抜入試、さらに学部と大学院が連携して行う在学生内部推薦入試を用意している。博士後期課程においては、前期課程の達成を前提にした一般入試を行い、さらに一部の研究科において社会人および外国人留学生を対象として行う特別選抜入試を実施している。

研究科別アドミッション・ポリシー

■文化創造研究科

〈教育・研究目的〉

科学技術の発展とともに人類の文明は長足の進歩を遂げたが、一方では精神文化の荒廃をも招く皮肉な事態を迎えている。そのような現代社会を生きる我々は、古人の精神的到達と蓄積された知恵とに学び、一方では文明の本質を見極めかつその成果としての利器を使いこなしながら、生活の規範ともいうべき新しい「文化」を創造していかなければならない。その方法を実践的に探求することが、本研究科の教育・研究目的である。

そのために、本研究科は国文学、図書館情報学、情報デザイン・システム、創作表現、メディアプロデュースおよび建築・インテリアデザインという、「表象」という点で共通項を持つ異分野をあえて一つの専攻にまとめた。そして、この6専修のうちの一つを学びのホームグラウンドとして定め、そこを起点として他の専修にも幅を広げることのできる学際的な教育・研究活動を行う。

その結果として、博士前期課程においては、専修の分野に関する高度の専門的知識および能力ならびに当該専修の分野における基礎的素養を身につける。また、博士後期課程においては、広い視野に立つ精深な学識を身につけるとともに、専修の分野における研究能力またはこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培う。

〈学生に期待すること〉

博士前期課程においては、各専修の専門的な研究の深化にとどまらず、他専修の学修を通じた学際的な視野をも身につけることにより、多角的あるいは複眼的な思考法および表現法を獲得することを期待する。

博士後期課程においては、博士前期課程における学修・研究成果を踏まえて、社会、文化および人間相互の関わりをより広い視野に立って探究し、時代の要請に応え得る特に高度な専門的能力・識見を身につけることを期待する。

〈学生募集に際して重視すること〉

博士前期課程においては、自らの研究課題が現代社会における文化創造にどのように寄与できるのか、という問題意識について自覚的であるかどうか、そしてそれを不断に持ち続けられるかどうかを重視する。

博士後期課程においては、博士前期課程における学修・研究を踏まえて、独自性と普遍性を併せ持つさらに高度な研究成果を上げ得るかどうか、そしてそれが文化創造に具体的に寄与し得る提案としての可能性を有しているかどうかを重視する。

〈入学前学修として推奨すること〉

博士前期課程においては、学びのホームグラウンドの確立、言い換えるなら現在在籍している学部・学科の専門分野（どんな分野であれ）の学修を可能な限り深めておくことを推奨する。

博士後期課程においては、博士前期課程の成果に対する徹底的な検証と、今後の研究に関する精密な計画の立案を推奨する。

■教育学研究科

〈教育・研究目的〉

子どもたちや学校を取り巻く環境が大きく変化するなかで、教員に対してより高度な専門性が求められている。本研究科では、広い視野に立った精深な学識を有するとともに、卓越した実践能力を併せ持つ、小学校教員をはじめとする教育界の指導的人材を育成することを目指している。その目的を実現するために、教育の主たる活動の場である学校における教科教育を中心に教育を考える教育学専修と、人間の発達の可能性とその促進という面から教育を捉える子ども発達専修の2つの専修を設け、それぞれに応じた深い学修・研究を行うとともに、各専修のどちらかに偏ることなく、それぞれを有機的に関連づけることでより幅広く対応できるように「教育研究科目」「教育科学科目」「教科教育科目」「子ども発達科目」「実践展開科目」から構成される体系的なカリキュラムを編成している。

また、本研究科では、教育目的に沿って、学生のニーズに応じて学生が学部で取得した教員免許状とは異なる校種の教員免許状取得を認めている。とくに文学部教育学科と連携して、在学中に小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状の取得が可能である。

研究においては、入学時から修了まで、学生各自の研究テーマに沿って指導教員によるきめ細かな指導を行う。

〈学生に期待すること〉

人間の教育や発達に関する問題を論理的に捉え、分析・考察することを通して、新しい時代の教育に対応できる高度な専門的知識と確かな実践力を兼ね備えた教員や教育界での指導者となることを期待している。

〈学生募集に際して重視すること〉

これからの望ましい教育に対する強い関心と、それを実現しようとする熱い志を有するとともに、独りよがりにならずに客観的な視点から冷静に問題を捉えることができるかどうかを重視する。

〈入学前学修として推奨すること〉

人間の教育や発達についての原理、指導法に関する基礎的な学力と知識をできるだけ身につけておくことを望む。

■心理医療科学研究科

〈教育・研究目的〉

私たちの生き方の基本原理は、経済性と効率のよさを追求する“ビジネスの原理”から、人間性を大切にこころ豊かな生活者であろうとする“いのちの原理”へと、大きな方向転換のときを迎えている。本研究科は、心と体の両面からいのちと人生と生活の質（QOL=Quality of Life）を捉え直し、それを高める方策を見直し、新たに得られた知見を社会に還元し地域貢献に生かすことのできる、高度な専門性と学際性を持った研究者、実践者の育成を目的としている。

〈学生に期待すること〉

前期課程においては、大学卒業の水準に見合った科学的で論理的な思考力を有すること、および専門分野について、自立した研究者としての研究技能と知識を修得する意欲があり、独自の研究課題と問題意識が明確で、その課題に対して主体的に取り組む姿勢を有していることを、基本条件として考えている。

後期課程においては、それに加えて、当該学問分野の学術的発展および教育に貢献しようという高い志を有していることが期待される。すなわち、専門分野における研究者としてだけではなく、将来にわたり研究者の指導と養成に携わる意欲と資質を持った入学者を、選抜することを想定している。

〈学生募集に際して重視すること〉

すべての入試形態において、修学意欲が高くそれぞれの専門分野への志望動機が明確で、専門分野に関する基礎知識を有していることと、前期課程においては2年間の、後期課程においては3年間の研

究計画が具体化されていることの2点を中心に、専門分野への適性を考慮して合否の判定を行う。
〈入学前学修として推奨すること〉
自分の専修に偏らずに、近接する学問分野についても関心を寄せ、柔軟な思考力と発想力を培うような学習スキルの獲得が推奨される。それが、実践を通して学び、研究成果を実践の場に還元するための力になっていく。

■健康栄養科学研究科

〈教育・研究目的〉
少子高齢化が急速に進む我が国において、現在の医療・介護と栄養を取り巻く社会的要請としては、「高齢者が地域で自立した生活を営むために、栄養を含む医療や介護領域の多職種間の連携を強化してこれを支援する、それによって、要介護状態に陥ることを防ぎ健康寿命を延伸する」ことにあると言える。本研究科は、このような背景の下で、「栄養を含む医療や介護領域において、高度かつ先進的な知識や技術に基づいて、地域が抱える諸問題を多職種連携の中でリーダーシップを発揮しながら解決していく高度専門職業人」を養成することを目的とする。
〈学生に期待すること〉
本研究科の教育・研究目的を達成するために、入学生には以下の能力を期待する。
(1)栄養学を構成する人間、食物、環境、さらには栄養学に関連する生理学から臨床医学領域における学士課程修了相当の基礎的な知識・技能
(2)栄養学に関する問題を自ら発見し、問題解決に向け、科学的根拠に基づいて実証的に分析し、論理的に思考する能力
(3)高いコミュニケーション能力を用いて他職種と協働でき、積極的かつ主体的にチームを牽引する能力
上述する能力に加えて、大学院における学修や研究に真摯に取り組む姿勢や意欲を有する者を求める。
〈学生募集に際して重視すること〉
全ての入試形態において、栄養学とそれに関連する学問領域の基礎的知識を有していることが大前提である。それに加えて、2年間の学修・研究計画が具体化されていることを重視する。その上で、希望する専門分野への適性や当該学問分野の学術的発展や後進の育成に貢献しようという意欲と高い志を評価して合否判定を行う。
〈入学前学修として推奨すること〉
栄養を含めた医療や介護領域にとどまらず、広い視野で人間社会を俯瞰するような視点を有することを心がけてほしい。人類学や社会学、行動科学や心理学などにも興味を示してその領域の学修を深めておいてほしい。

■グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

〈教育・研究目的〉
急速な変容を遂げている現代国際社会は、国家間及び民族間の協調共存の維持と同時に、個人の活動を含め、信頼関係に立った実践的な貢献の必要性を各国の市民に問うている。本研究科が目指しているのは、異文化理解、市民交流の意識を持って社会に実践的に働きかける人材を育成することである。さらに「違いを共に生きる」を理念とし、社会人の再教育の場及び自己実現の場を提供している。
本研究科は学生の研究テーマに基づき、言語文化コースと交流文化コースの2つに分かれている。言語文化コースは、日本語・日本語教育専修、総合英語専修、東アジア言語文化専修、そして交流文化コースは国際交流・観光専修及びグローバルスタディーズ専修に細分され、それぞれの学生の研究が深められるような授業が提供されている。
〈学生に期待すること〉
博士前期課程では学部教育で培った専門領域に関する基礎知識を基に、自らの設定した特定課題

を広い視野から批判的な目を持って追究し、意見を様々な言語で表現する能力を持つ者、また高めていきたい者を求めている。強い意志と意欲で研究し、その結果を人々の生活や社会の発展に貢献しようとする態度を持っていることが重要視される。博士後期課程では前期課程での学修等を基盤に、独自の視点と研究方法により研究テーマに対してあらたな発見をもたらし学問の発展や社会問題の解決に寄与することを目標としていることを期待する。

〈学生募集に際して重視すること〉

博士前期課程では、人々の行動を社会、文化、ビジネス、そして言語やコミュニケーションなどの理論的視点からその現状を把握、分析することはもとより、さまざまな文化圏の人々がより豊かな生活を享受するために自分の研究を役立てたいと考えている学生の出願を歓迎する。また、博士後期課程へ出願をする者は、独自の研究テーマを一層専門的に研究し、将来は専門の研究領域に関する高度な知識と技術を必要とする業務に従事しようとする意欲を持つことが望まれる。

〈入学前学修として推奨すること〉

本研究科博士前期課程にて実りある研究活動を行うために、英語をはじめとする外国語コミュニケーションスキル、人間の本質を理解しようとする好奇心、世界のさまざまな出来事・問題を分析する力、その結果を適切な言葉で表現、伝達する技術を所属学部・学科での学修を通して培うことを推奨する。一方、博士後期課程では、より意義深く精緻な研究を実施するため、関連分野の理論や研究法に関する知識を十分に身につけることにより、あらかじめ研究の基盤を構築しておくことを推奨する。

■ビジネス研究科

〈教育・研究目的〉

ビジネス研究科では、自ら考えるための専門的知識と問題解決能力を身につけた研究者や高度な専門的職業人を育成することを目指している。

博士前期課程では、この目標を実現するため専門的職業人コース（ビジネスプロフェッショナルコース）と研究者養成コース（リサーチプロフェッショナルコース）という2つの修了要件を設けている。専門的職業人コースは、所定の単位を修得すれば修士論文を必須とはせず、課題研究レポートをもって代えることができる。研究者養成コースは博士後期課程への進学を視野に研究能力を高めることを目指す。

博士後期課程では、広い視野に立つ高度な学識、分析能力を身につけるとともに、高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培う。

〈学生に期待すること〉

高度な知識とスキルを獲得する意欲、培った知識をベースに創造力と構想力のある提言を行い、プロフェッショナルとして活動することが求められる。

特に博士後期課程の学生については、修了後も研究テーマに強い意欲を持ち続け、自立した研究者として学術活動の進歩と発展に貢献する人材となることが期待される。

〈学生募集に際して重視すること〉

多様な学歴と経歴を持つ学生を受け入れるが、それぞれの分野で学修に必要な、十分な知識を持つことが求められる。論理的にものごとを分析、考察する能力と共に、研究テーマに強い意欲を持ち続けられる学生を歓迎する。

特に博士後期課程の学生については、研究者としてさらなる学問的発展を目指す意欲を有すことが求められる。

〈入学前学修として推奨すること〉

博士前期課程においては、経営学、商学、経済学などビジネスに関する学問分野についての可能な限り高い知識を修得するとともに、経済・政治・社会などのニュースにも積極的にアクセスし、幅広く関心をもつことが望まれる。また研究分野やその近接領域については、学修をさらに深めておくことを推奨する。

博士後期課程においては、博士前期課程、修士課程での成果等に対する再検証と今後の研究に関する精緻な計画の立案を推奨する。

研究科別各専修概要

■文化創造研究科 文化創造専攻

【国文学専修】(定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名)

古代から現代に至る日本文学および日本語学を中心に、隣接諸領域を含む幅広い学修・研究を実践的に行います。科目履修による指定要件を満たせば、高等学校および中学校の国語科教諭専修免許状を取得できます。

【図書館情報学専修】(定員：前期課程6名程度、後期課程1～2名)

図書館研究を軸に、印刷体からデジタルまでの情報メディアの機能および情報流通・サービスの研究、ならびに知識情報資源のマネジメント、情報探索行動および知識情報処理の研究など、その応用分野について多彩な学修・研究を行います。

【情報デザイン・システム専修】(定員：前期課程6名程度、後期課程1～2名)

情報デザイン、情報システムを対象として、アプリ・システム開発、人間工学、交通工学、計算科学などの視点から、人に優しく豊かなデジタルライフを提案・創造し、今後の社会に貢献する人材を育成します。

【創作表現専修】(定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名)

短歌、小説、評論、童話、戯曲などの活字を媒体とする創造的表現活動を主な研究課題とし、理論と実践の両面を高いレベルで身につけた、創造的かつ先鋭な表現者を社会へ送り出します。

【メディアプロデュース専修】(定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名)

現代のコミュニケーション活動や表象文化を支えるさまざまなメディアについて、表現形式や制作技術にとどまらずその歴史的、文化的、社会的背景にまで目を向け、メディア表現の理論を学ぶとともに制作や調査などを交えて総合的に研究します。

【建築・インテリアデザイン専修】(定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名)

建築とインテリアを一体として捉え、工学的・芸術的な視点だけでなく、文化的・社会的側面など隣接諸領域との関わりを重視して、理論と応用の両面から多面的かつ総合的な学修・研究を行います。

■教育学研究科 発達教育専攻

【教育学専修】(定員：修士課程5名程度)

教育の主たる活動の場である学校における教育を中心に考えます。教育科学や教科教育などの専門的研究を基に、学校を主とした教育現場での実践の内容や方法等について検討し考察を深めます。

【子ども発達専修】(定員：修士課程5名程度)

教育を人間の発達の可能性とその促進という面から捉えます。学齢期だけでなく就学前期も含めた人間の発達過程における教育の内容や意義、また何らかの原因で通常の発達過程をたどれない子どもたちへの教育の方法等について詳しく検討していきます。

■心理医療科学研究科 心理医療科学専攻

【心理学専修】（定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名）

「生理・認知」「社会」「発達」の3つの側面から心理学についてのより高度な専門的知識や研究に必要な見識と技能を修得したうえで、人間の意識や行動を巨視と微視の両面から科学的に追究する高度専門職業人の育成を目指します。

【臨床心理学専修】（定員：前期課程15名程度、後期課程1～2名）

現代社会が抱える課題を視野に入れ、個人や家族、組織の病理や心理的問題に取り組むため、高度な研究的視点を持ち、対象者への取り組みを通して自らを成長させることのできる、心理臨床実践者の育成を目指します。臨床心理士と公認心理師の受験資格取得が可能なカリキュラムを準備しています。

【社会福祉学専修】（定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名）

複雑化し、多様化の一途を辿る現代社会の福祉課題に取り組むことのできる人材の育成を目指して、乳幼児期から高齢期までの特性を理解しながら、専門諸分野の協働を可能とする研究的視点を持って、実践的な学修を進めます。

【言語聴覚学専修】（定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名）

言語聴覚士としての専門性を磨きたい、または言語聴覚学研究に取り組みたい学生を対象に、基礎となる理念と専門知識を身につけたうえで、確かな研究技能の修得を通して、次世代の言語聴覚学研究の先端で活躍できる人材の育成を目指します。

【視覚科学専修】（定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名）

視能訓練士としての専門性を磨きたい、視覚科学または視能矯正学の研究に取り組みたい学生を対象に、自己の問題意識を起点にして、視覚科学および医療科学全般にわたる広い学識に基き、視覚および視覚機能障害の問題に対して医学的・科学的に追究することのできる人材の育成を目指します。

【スポーツ・健康医科学専修】（定員：前期課程7名程度、後期課程1～2名）

超高齢社会の到来を視野に入れ、スポーツ科学、体育学、医学、栄養学、生理学のほか、社会科学、人文科学などの多角的視点を持って、人間の生涯にわたる「健康」を支えることのできる人材の育成を目指します。人間に取り組むための姿勢のほか、生体全体の医学的知識を基盤に置き、ライフステージに応じた健康維持と増進に資するための知識と技能を学びます。

■グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻

〔言語文化コース〕

【日本語・日本語教育専修】（定員：前期課程10名程度、後期課程1～2名）

日本語・日本語教育専修では、日本語の言語面、運用面での特徴を語彙論、統語論、語用論などの理論的視点から追究する研究を通して日本語についてより専門的な知識を獲得すること、そして日本語を外国語及び第2言語として学習する人々に対する教育に関する理論的・実践的研究を実施し効果的な言語習得法を探求することを目標とします。

【総合英語専修】（定員：前期課程10名程度、後期課程1～2名）

総合英語専修では、英語の語彙面、構造面、音声面などにおける言語的特徴、そして英語に関する言語習得や言語教育に関する理論的な研究に加えて、文学や映画などの文化的産物を通して英語の背景にある社会や文化に焦点をあてた研究を実施する能力を養成します。それらの分野での研究活動を通して、英語、英語の運用、英語文化についてより深い知見を持った研究者や実践者を育成することを目標とします。

【東アジア言語文化専修】（定員：前期課程5名程度、後期課程1～2名）

東アジア言語文化専修では、主に中国語および韓国･朝鮮語に関して、言語の構造、語彙、言語運用面での特徴や言語教育に関する研究に加えて、その他の言語との比較研究、さらに文学や文化に焦点をあてた研究を行うことにより、それぞれの言語やその背景にある社会、歴史、文化に関しての高度な知識と理解を修得することを目指します。

〔交流文化コース〕

【国際交流･観光専修】（定員：前期課程5名程度、後期課程1～2名）

国際交流･観光専修では、グローバル化に伴う人の移動と接触、地域間での連帯や協力、そして国家間関係の歴史や現状を国際関係や国際交流という視点から知見を深める一方、近年特に注目をされている観光や街づくりをも研究対象とし、問題の発見･解決･提案というプロセスを中心にした理論的、実践的研究を行う力を培うことを目標とします。それらの研究を通して、社会の発展に寄与できる実践力を持つ人材の育成を目指します。

【グローバルスタディーズ専修】（定員：前期課程15名程度、後期課程1～2名）

グローバルスタディーズ専修では、グローバル化が進む国際社会における日本の姿に注目した研究、日本と海外の社会システム、言語や心理に関する比較研究を通し、異文化に精通した人材を育成します。また実践面では、異文化交流、教育、ビジネスの場面で国際語である英語を駆使しながら活躍できる人材の育成を目標としています。授業はすべて英語で行われます。

■ビジネス研究科 ビジネス専攻

【アカウンティング専修】（定員：前期課程10名程度、後期課程2～3名）

財務会計、管理会計、監査、税法など、会計に関連する科目を体系的に配置しています。各分野の研究者や、公認会計士、税理士の資格を持つ教員が、最新の制度や実務動向を踏まえた講義を展開しています。また、税理士試験の科目免除にも対応し、会計専門職をめざす学生を支援しています。

【マネジメント&エコノミー専修】（定員：前期課程10名程度、後期課程2～3名）

経営学、商学、経済学にまたがる科目を配置しており、学生は自らが専門とする分野のほか、隣接分野の科目についても、幅広く学修することができます。各分野の研究者をはじめ、金融機関の出身者、現役のコンサルタントなど、多様なバックグラウンドをもつ教員が、実践的で高度な教育を行っています。

Ⅰ　博士前期課程（修士課程）

1 募集人員

研究科名	専攻名	一般	特別選抜
文化創造	文化創造	40名	
教育学	発達教育	10名	
心理医療科学	心理医療科学	50名	
健康栄養科学	健康栄養科学	6名	
グローバルカルチャー・コミュニケーション	グローバルカルチャー・コミュニケーション	45名	
ビジネス	ビジネス	20名	

2 試験日程

入試区分	出願期間	試験日	合格発表日
4月入学1期 ※心理医療科学研究科のみ実施	2025年8月28日（木）～9月8日（月） （締切日消印有効）	2025年9月27日（土）	2025年10月3日（金）
4月入学2期	2026年1月5日（月）～1月13日（火） （締切日消印有効）	2026年2月18日（水）	2026年2月20日（金）

10月入学の募集は、グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科、ビジネス研究科のみおこないます。ただし、2026年6月3日（水）までに申し出（出願書類の提出締切日は2026年6月17日（水））がない場合は、入学試験は実施しません。

3 出願資格

【一般入試】

次のいずれかに該当する者（①～⑤は、2026年3月末日までに該当する見込みの者を含む）

① 学士の学位を授与された者
② 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
③ 外国の学校がおこなう通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
④ 日本において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
⑤ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
⑥ 文部科学大臣が指定した者
⑦ 各研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに22歳に達する者（対象者は、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等）
⑧ 大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であって、本学が定める単位を優秀な成績で修得した者と認めた者
⑨ その他各研究科において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

【特別選抜入試】

●社会人入試

〈文化創造研究科、教育学研究科、健康栄養科学研究科、グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科、ビジネス研究科〉

P.8の一般入試の出願資格のいずれかに該当する者であって、入学時において2年以上の社会人としての経験を有し、かつ24歳に達した者（職歴は問わない）。なお、学部を卒業見込みの者は、「社会人入試」ではなく「一般入試」に出願すること。

〈心理医療科学研究科〉

P.8の一般入試の出願資格のいずれかに該当する者であって、入学時において2年以上の社会人としての経験を有し、かつ24歳に達した者（職歴は問わない）。なお、学部を卒業見込みの者は、「社会人入試」ではなく「一般入試」に出願すること。

ただし、社会福祉施設・機関等で正規職員※、または医療機関等において常勤職の言語聴覚士あるいは視能訓練士として、入学時において2年以上の現場経験を有する者は、次の①②の同意が得られ、受験許可書（入学承諾書）を提出することで年齢を問わず出願を認める。

① 施設長あるいは機関の長による受験の許可が得られていること
② 施設長あるいは機関の長より大学院入学後の現職継続の承認が得られていること

※下線部に該当する者は次の通りである。

（ア） 社会福祉法、介護保険法および社会福祉関係法規に定める施設・機関等での業務に従事している者
（イ） 保健師、看護師ならびに保健医療施設・機関において社会福祉に関わる業務に従事している者
（ウ） 学校教育および社会教育に関する業務で福祉教育・障がい児教育に従事している者、社会福祉士、精神保健福祉士および介護福祉士養成施設、専門学校等で教育に従事している者
（エ） 更生保護事業およびそれに準ずる業務に従事している者
（オ） その他、社会福祉に関連した業務に従事している者で本研究科において認めた者

●外国人留学生入試

〈文化創造研究科、教育学研究科、心理医療科学研究科、健康栄養科学研究科、ビジネス研究科〉

注 日本の大学を卒業または卒業見込みの者は、外国人留学生入試は受験できません。

外国の国籍を有する者（日本の「永住者」および「特別永住者」として許可された者を除く）で、（独）国際交流基金と（公財）日本国際教育支援協会が主催する「日本語能力試験（JLPT）」N1に合格または（独）日本学生支援機構が実施する「日本留学試験（EJU）」※の「日本語」科目において読解、聴解・聴読解250点以上および記述35点以上得点した者で、次の①～③のいずれかに該当する者

① 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者（2026年3月末日までに修了見込みの者を含む）
② 各研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに22歳に達する者（対象者は、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等）
③ その他各研究科において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

※対象とする「日本留学試験（EJU）」

入試	2024年度	2025年度	
	第2回（11月）	第1回（6月）	第2回（11月）
4月入学1期	○	○	－
4月入学2期	－	○	○

〈グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科〉

注日本の大学を卒業または卒業見込みの者は、外国人留学生入試は受験できません。

外国の国籍を有する者（日本の「永住者」および「特別永住者」として許可された者を除く）で、(1)または(2)のいずれかを満たす者であり、かつ①～③のいずれかに該当する者

(1) 以下の日本語試験を受験し、科目履修に十分な日本語能力があると認められる者

〈日本語試験〉

・（独）国際交流基金と（公財）日本国際教育支援協会が主催する「日本語能力試験（JLPT）」N1に合格または（独）日本学生支援機構が実施する「日本留学試験（EJU）」※の「日本語」科目において読解、聴解・聴読解250点以上および記述35点以上得点した者

※対象とする「日本留学試験（EJU）」

入試	2024年度	2025年度	
	第2回（11月）	第1回（6月）	第2回（11月）
4月入学1期	○	○	－
4月入学2期	－	○	○

(2) 以下の英語試験を受験し、英語能力があると認められる者、もしくは以下の本学の指定する国で学校教育における16年の課程を修了した者

※ただし、グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科の総合英語専修またはグローバルスタディーズ専修に出願する者のみとする。

〈英語試験〉

※CEFR B2以上。対象とする資格・検定試験は2023年4月以降に取得したものとする。

・ケンブリッジ英語検定 160以上
・実用英語技能検定（準1級以上、合否は問わない）2300以上
・GTEC（CBT・検定版）1180以上
・IELTS〈アカデミック・モジュール〉（方式問わず）5.5以上
・TEAP（4技能）309以上
・TEAP CBT 600以上
・TOEFL iBT 72以上
・TOEIC（4技能）※IPテストは不可 1095以上

〈本学の指定する国〉学校教育における16年の課程所在国が以下の国であること

アンティグア・バーブーダ、オーストラリア、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ボツワナ、カナダ、ドミニカ、ガーナ、グレナダ、ガイアナ、アイルランド、ジャマイカ、レソト、リベリア、モーリシャス、ナミビア、ニュージーランド、ナイジェリア、フィリピン、セイシェル、シエラレオネ、シンガポール、ソロモン諸島、南アフリカ、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、トリニダード・トバゴ、イギリス、アメリカ、ザンビア、ジンバブエ、英国の領土、アメリカの領土、オーストラリアの領土、ニュージーランドの領土

① 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者（2026年3月末日までに修了見込みの者を含む）
② 各研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに22歳に達する者（対象者は、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等）
③ その他各研究科において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

〈事前の出願資格確認について〉

該当者は出願開始日の1週間前までに出願資格確認をおこなってください。確認をおこなっていない者は、出願することができません。

1. 対象者
   - ・一般入試の出願資格⑦⑧⑨に該当する者
   - ・特別選抜入試（社会人入試）の出願資格⑦⑧⑨に該当する者
   - ・特別選抜入試（外国人留学生入試）に出願する者（全員）

2. 提出書類
   本学所定用紙は大学WEBサイトよりダウンロードする。

提出書類	一般入試 社会人入試	－	出願資格 ⑦	出願資格 ⑧	出願資格 ⑨
	外国人留学生入試	出願資格 ①	出願資格 ②	－	出願資格 ③
出願資格確認申請書（本学所定用紙）		○	○	○	○
卒業（見込）証明書または修了（見込）証明書		○	○	－	－
在学証明書		－	－	○	－
学業成績証明書		○	○	○	－
履歴書（本学所定用紙:様式C）		○	○	○	○
業績書（本学所定用紙:様式D）		－	○	○	○
パスポートのコピー		外国人留学生入試の 出願資格①②③該当者は提出			
〈日本語試験〉 「日本語能力試験（JLPT）」N1の日本語能力認定書のコピーまたは「日本留学試験（EJU）」の受験票等のコピー ＊日本留学試験については、本学より実施団体へ成績請求をおこなう。 ＊コピーはA4サイズとする。 〈英語試験〉 英語試験の成績を証明するもののコピー ＊コピーはA4サイズとする。					

〈提出書類についての注意〉

- ・日本語または英語で作成されたものを提出してください。日本語・英語以外で記載されている場合は、翻訳証明（出身学校、公的機関、翻訳機関等で証明をうけたもの）を添付してください。
- ・原本が1部しかないものや再発行できないもの（卒業証明書や成績証明書等）は、原本証明がなされた複写（コピー）を提出してください。
  - ※原本証明（Certified True Copy）とは、原本から正しく複製されたものであることを出身の高等学校や日本語学校等が証明し、機関印を押印したものです。
  - ※出身の学校等で原本証明を受けることができない場合には、提出する前にアドミッションセンターまで問い合わせてください。
- ・提出された出願書類等は返還しません。
- ・証明書等の氏名が出願時と異なる場合は、改性・改名の事項が記載された公的証明書（戸籍抄本等）の原本を提出してください。

3. 郵送先
   〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘23
   愛知淑徳大学　アドミッションセンター　大学院入試係
   『事前出願資格確認申請書　在中』

4. 結果について
   出願資格確認の結果については、全員に郵送で通知します。出願資格が認められた者には、「愛知淑徳大学出願資格認定書」を同封します。

4 出願手続

出願期間内に入学検定料を払い込み、下記の提出書類を郵便局窓口から「速達・簡易書留」で郵送してください。大学窓口での受付はおこないません。

・出願後（出願書類郵送後）の出願内容の変更・取消は、いかなる理由があっても認めません。
・提出された出願書類、入学検定料等は返還しません。

〔提出書類〕

本学所定用紙は、大学WEBサイトよりダウンロードする。

提出書類	備考
志願票	本学所定用紙
卒業（見込）証明書	最終出身大学作成のもの（大学院博士前期（修士）課程修了者も学部の証明書） ・学業成績証明書は、出願期間に提出可能な最新のもの ・証明書の氏名が出願時と異なる場合は、改姓・改名の事項が記載された公的証明書（戸籍抄本等）の原本を提出する
学業成績証明書	
研究計画概要	本学所定用紙 （様式A）：文化創造研究科（国文学専修） （様式B）：文化創造研究科（国文学専修以外）、教育学研究科、心理医療科学研究科、健康栄養科学研究科、グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科、ビジネス研究科
履歴書	本学所定用紙（様式C）
業績書	本学所定用紙（様式D）
受験許可書（入学承諾書）	本学所定用紙（様式E） 心理医療科学研究科　社会人入試出願者のうち、入学後も継続して勤務する者（P.9参照）は提出
身元保証書	本学所定用紙（様式F） 外国人留学生入試出願者は提出
出願資格認定書のコピー	一般入試出願資格の⑦⑧⑨該当者、社会人入試出願資格の⑦⑧⑨該当者、外国人留学生入試の出願者は提出

※事前に出願資格確認をおこなった者は、その際に提出した「卒業（見込）証明書」「学業成績証明書」「履歴書」「業績書」について、出願時の提出は不要。
※長期履修学生制度（P.43参照）を希望する者は、出願提出書類の他に長期履修学生制度の申請書類も一緒に提出してください。

〈提出書類についての注意〉

・日本語または英語で作成されたものを提出してください。日本語・英語以外で記載されている場合は、翻訳証明（出身学校、公的機関、翻訳機関等で証明をうけたもの）を添付してください。
・原本が提出できない場合は、大学が原本から正しく複製されたことを証明した Certified True Copy を提出してください。

〔入学検定料〕　**25,000円**

コンビニエンスストアで払い込んでください（P.23参照）。
※出願資格確認を申請した者は、結果通知の到着後に、払い込みをしてください。

〔郵送先〕

〒464-8671　名古屋市千種区桜が丘23
愛知淑徳大学　アドミッションセンター　大学院入試係

5 出願時の注意

長期履修学生制度

教育学研究科、心理医療科学研究科（臨床心理学専修は博士後期課程のみ）、健康栄養科学研究科、ビジネス研究科に出願する者で、長期履修学生制度（P.43参照）を希望する場合は、入学試験出願時に申請してください。

全研究科共通

志　願　票　・左上の整理番号7ケタは、4月入学1期は「711+生年月日の月日（4ケタ）」、4月入学2期は「712+生年月日の月日（4ケタ）」を各自で記入してください（入学検定料払い込みの際にも必要です）。
・専修名は、P.5～7「研究科別各専修概要」を参照してください。

業　績　書　・これまでの研究論文（卒業論文、卒業研究の内容や研究テーマに興味を抱いた経緯などを含む）、研究発表、レポート等について具体的に記入してください。
・社会人入試の出願者は、学校を含むあらゆる学修機関・機会における学修内容と期間、自主的な学修についても、できるだけ具体的に記入してください。
・特記事項がない場合は、その旨を記入して提出してください。

文化創造研究科

事前連絡　受験を希望する者は、事前に希望する指導教員に連絡し、指導内容について確認してください。

研究計画概要　・国文学専修は手書き可。
・「希望する指導教員名」の欄に、指導を希望する教員名（P.27参照）を記入してください。

業　績　書　作品や参加したコンペ、プロジェクト、制（製）作物等がある場合は、具体的に記入してください（必要に応じて、参考資料を添付してください）。

心理医療科学研究科

詳細はP.28～35を参照してください。

事前連絡　受験を希望する者は、事前にアドミッションセンターに連絡のうえ、希望する専修の教員と面談し、専修選択の適性について確認してください。

志　願　票　「希望指導教員」の欄に、指導を希望する教員名（P.30～35参照）を記入してください。臨床心理学専修を希望する場合は「臨床心理学専修」と記入してください。

研究計画概要　・字数は1,000字程度。
・「希望する指導教員名」の欄に、指導を希望する教員名を記入してください。臨床心理学専修の出願者は「臨床心理学専修」と記入してください。

業　績　書　社会人の場合は日常の業務内容等についても具体的に記入してください。福祉実務経験や医療機関等での実務経験、成果などがある場合は、具体的に記入してください。

健康栄養科学研究科

事前連絡　受験を希望する者は、事前に希望する指導教員に連絡し、指導内容について確認してください。

研究計画概要　「希望する指導教員名」の欄に、指導を希望する教員名（P.36参照）を記入してください。

業　績　書　社会人の場合は日常の業務内容等についても具体的に記入してください。福祉実務経験や医療機関等での実務経験、成果などがある場合は、具体的に記入してください。

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

志　願　票　一般入試の出願者は「外国語試験選択科目」欄において外国語試験で選択する言語（英語、中国語または韓国語）を○で囲んでください（母語を選択してもよい）。

業　績　書　携わったプロジェクトなどがある場合は、具体的に記入してください。

ビジネス研究科

研究計画概要　「希望する指導教員名」の欄に、指導を希望する教員名（P.37～38参照）を記入してください。

6 選抜方法･配点･試験時間割

・試験開始20分前（面接は15分前）までに試験室に入室･着席してください。
・必要に応じて、各自で昼食を持参してください。各自持参した昼食は、試験室の自席でとってください。
学内の食堂、売店は営業していません。

【一般入試】

研究科	試験時間	試験科目･配点	備考
文化創造	—	書類審査（50点）	
	10:45 ～ 12:15	専門分野筆記試験（150点）	※試験内容は、各専修で異なる 図書館情報学専修は、英語の語学力を主とする試験
	13:15 ～	面接（100点）	
教育学	—	書類審査（10点）	
	9:15 ～ 10:15	外国語試験（英語）（100点）	英和辞典のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可
	10:45 ～ 12:15	専門科目試験（100点）	小論文形式（志望する専修の指定するテーマ） ※試験内容は、各専修で異なる
	13:15 ～	面接（90点）	
心理医療科学	—	書類審査（50点）	
	9:15 ～ 10:15	外国語試験（英語）（100点）	英和辞典1冊のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可
	10:45 ～ 12:15	専門科目試験（100点）	P.28 参照 ※試験内容は、各専修で異なる
	13:15 ～	面接（50点）	
健康栄養科学	—	書類審査（30点）	
	9:15 ～ 10:15	外国語試験（英語）（100点）	英和辞典のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可
	10:45 ～ 11:45	専門科目試験（100点）	記述試験形式（医学･栄養学の分野）
	13:15 ～	面接（70点）	
グローバルカルチャー・コミュニケーション	—	書類審査（50点）	
	9:15 ～ 10:15	外国語試験（50点）	英語、中国語または韓国語を選択する （母語を選択してもよい） 英和・中和・韓和辞典のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可
	10:45 ～ 11:45	専門科目試験（50点）	小論文形式 各専修に関する設問について選択し、 日本語または英語で解答する ※英語で解答可能となるのは総合英語専修またはグローバルスタディーズ専修に出願する者のみ
	13:15 ～	面接（50点）	
ビジネス	—	書類審査（50点）	
	10:45 ～ 12:15	専門科目試験（100点）	小論文形式
	13:15 ～	面接（100点）	

【特別選抜入試（社会人入試）】

研究科	試験時間	試験科目･配点	備考
文化創造	—	書類審査（50点）	
	13:15 ～	面接（100点）	
教育学	—	書類審査（10点）	
	10:45 ～ 12:15	小論文（100点）	志望する専修の指定するテーマ ※試験内容は、各専修で異なる
	13:15 ～	面接（90点）	適性および学修意欲を評価する
心理医療科学	—	書類審査（50点）	
	9:15 ～ 10:15	**〈心理学専修〉** **〈臨床心理学専修〉** **〈言語聴覚学専修〉** **〈視覚科学専修〉** **〈スポーツ･健康医科学専修〉** 外国語試験（英語）（100 点）	英和辞典1冊のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可
		〈社会福祉学専修〉 小論文（課題図書）（100 点）	P.29参照
	10:45 ～ 12:15	**〈心理学専修〉** **〈臨床心理学専修〉** **〈言語聴覚学専修〉** **〈視覚科学専修〉** **〈スポーツ･健康医科学専修〉** 小論文（課題図書）（100 点）	P.28～29参照
		〈社会福祉学専修〉 専門科目試験（社会福祉学）（100点）	
	13:15 ～	面接（50点）	
健康栄養科学	—	書類審査（30点）	
	9:15 ～ 10:15	外国語試験（英語）（100点）	英和辞典のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可
	10:45 ～ 11:45	専門科目試験（100点）	記述試験形式（医学･栄養学の分野）
	13:15 ～	面接（70点）	
グローバルカルチャー・コミュニケーション	—	書類審査（50点）	
	10:45 ～ 11:45	専門科目試験（50点）	小論文形式 各専修に関する設問について選択し、 日本語または英語で解答する ※英語で解答可能となるのは総合英語専修またはグローバルスタディーズ専修に出願する者のみ
	13:15 ～	面接（50点）	
ビジネス	—	書類審査（100点）	
	10:45 ～ 12:15	専門科目試験（50点）	小論文形式
	13:15 ～	面接（100点）	

【特別選抜入試（外国人留学生入試）】

研究科	試験時間	試験科目･配点	備考
文化創造	—	書類審査（50点）	
	10:45 ～ 12:15	専門分野筆記試験（150点）	※試験内容は、各専修で異なる
	13:15 ～	面接（50点）	
教育学	—	書類審査（10点）	
	10:45 ～ 12:15	小論文（100点）	志望する専修の指定するテーマ ※試験内容は、各専修で異なる
	13:15 ～	面接（90点）	適性および学修意欲を評価する
心理医療科学	—	書類審査（50点）	
	9:15 ～ 10:15	外国語試験（英語）（100点）	英和辞典1冊のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可
	10:45 ～ 12:15	小論文（課題図書）（100点）	P.28～29参照
	13:15 ～	面接（50点）	
健康栄養科学	—	書類審査（30点）	
	9:15 ～ 10:15	外国語試験（英語）（100点）	英和辞典のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可
	10:45 ～ 11:45	専門科目試験（100点）	記述試験形式（医学･栄養学の分野）
	13:15 ～	面接（70点）	
グローバルカルチャー・コミュニケーション	—	書類審査（50点）	
	10:45 ～ 11:45	専門科目試験（50点）	小論文形式 各専修に関する設問について選択し、 日本語または英語で解答する ※英語で解答可能となるのは総合英語専修またはグローバルスタディーズ専修に出願する者のみ
	13:15 ～	面接（50点）	
ビジネス	—	書類審査（100点）	
	10:45 ～ 12:15	専門科目試験（50点）	小論文形式
	13:15 ～	面接（100点）	

7 試験会場

愛知淑徳大学　星が丘キャンパス　（P.24参照）

8 備考

文化創造研究科

●特別選抜入試（外国人留学生入試）出願者へ

① 文化創造研究科では、日本語で授業がおこなわれ、特に演習では討論への積極的な参加が求められます。また、研究を進めるにあたって、日本語による文献を精読することはもとより、日本語による指導を受けるとともに、日本人学生と情報交換することも必要です。

② 学内では日本語指導の補講はおこなっていません。十分に日本語を学んでから受験してください。

③ 図書館情報学専修においては、英語で書かれた論文を読むことが多いため、基本的な英語力も必要とされます。

教育学研究科

●特別選抜入試（社会人入試）出願者へ

第7限（20:10～21:40）までの時間割を組むなどして、職業を持つ社会人も2年間で修士課程の修了が可能となるようにしています。

心理医療科学研究科

心理医療科学研究科を修了することで、社会福祉士、精神保健福祉士、言語聴覚士、視能訓練士の国家試験受験資格は取得できません。

●特別選抜入試（外国人留学生入試）出願者へ

本研究科では、日本語で授業がおこなわれ、討論等への積極的な参加が求められます。また、研究を進めるにあたって、日本語による指導を受けるとともに、日本人学生と情報交換することも必要です。

また、英語で書かれた論文を読むことが多いため、基本的な英語力も必要とされます。

●特別選抜入試（社会人入試）出願者へ

職業を持ったり勤務との両立を求める社会人が課程の修了要件を満たせるように、一部の授業を第6限（18:30～20:00）、第7限（20:10～21:40）の夜間授業時間帯に設けたり、夏季休暇中に開講したりするなどの工夫をしています。ただし、第6限、第7限のみでの修了要件単位修得はできない等の制約があります。修了要件単位の修得については、必ず事前にご相談ください。

健康栄養科学研究科

●特別選抜入試（外国人留学生入試）出願者へ

本研究科では、日本語で授業がおこなわれ、討論等への積極的な参加が求められます。また、研究を進めるにあたって、日本語による指導を受けるとともに、日本人学生と情報交換することも必要です。

また、英語で書かれた論文を読むことが多いため、基本的な英語力も必要とされます。

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

●特別選抜入試（社会人入試）出願者へ

第6限（18:30～20:00）までの時間割を組むなどして、職業を持つ社会人も2年間で前期課程の修了が可能となるようにしています。

ビジネス研究科

●特別選抜入試（社会人入試）出願者へ

第6限（18:30～20:00）、第7限（20:10～21:40）の時間割を組むなどして、職業を持つ社会人にも配慮しています。

Ⅱ　博士後期課程

1 募集人員

研究科名	専 攻 名	一般	特別選抜
文　化　創　造	文　化　創　造	6名	—
心 理 医 療 科 学	心 理 医 療 科 学	9名	
グローバルカルチャー・ コミュニケーション	グローバルカルチャー・ コミュニケーション	8名	—
ビ　ジ　ネ　ス	ビ　ジ　ネ　ス	5名	—

2 試験日程

入試区分	出願期間	試験日	合格発表日
4月入学	2026年1月5日（月）～1月13日（火） （締切日消印有効）	2026年2月18日（水）	2026年2月20日（金）

10月入学の募集はおこないません。

3 出願資格

【一般入試】

次のいずれかに該当する者（①～⑤は、2026年3月末日までに該当する見込みの者を含む）

① 修士もしくは博士の学位または専門職学位を授与された者
② 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
③ 外国の学校がおこなう通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
④ 日本において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
⑤ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
⑥ 文部科学大臣の指定した者
⑦ 各研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに24歳に達する者
⑧ その他各研究科において修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

【特別選抜入試】 〈心理医療科学研究科のみ実施〉

●社会人入試

P.18の一般入試の出願資格のいずれかに該当し、入学時において2年以上の社会人としての就業経験を有し、かつ、下記の条件を満たす者。ただし、出願時に大学院博士前期課程在学中の者を除く。

(1) 臨床心理学専修を志望する者については、臨床心理士の資格を有する者
(2) 現職者の場合は、施設・機関長より大学院入学後の現職継続の同意が得られ、受験許可書(入学承諾書)を提出できる者
(3) 現職者で社会福祉学専修を志望する者については、社会福祉施設・機関等で正規職員としての現場経験を有し、下記(ア)～(オ)のいずれかに該当する者
  (ア) 社会福祉法、介護保険法および社会福祉関係法規に定める施設・機関等での業務に従事している者
  (イ) 保健師、看護師ならびに保健医療施設・機関において社会福祉に関わる業務に従事している者
  (ウ) 学校教育および社会教育に関する業務で福祉教育・障がい児教育に従事している者、社会福祉士、精神保健福祉士および介護福祉士養成施設、専門学校等で教育に従事している者
  (エ) 更生保護事業およびそれに準ずる業務に従事している者
  (オ) その他、社会福祉に関連した業務に従事している者で本研究科において認めた者
(4) 現職者で言語聴覚学専修、視覚科学専修を志望する者については、言語聴覚士あるいは視能訓練士で、医療機関等において常勤職員としての現場経験を有する者

●外国人留学生入試

P.18の一般入試の出願資格のいずれかに該当し、外国の国籍を有する者(日本の「永住者」および「特別永住者」として許可された者を除く)で、(独)国際交流基金と(公財)日本国際教育支援協会が主催する「日本語能力試験(JLPT)」N1に合格または(独)日本学生支援機構が実施する「日本留学試験(EJU)」※の「日本語」科目において読解、聴解・聴読解250点以上および記述35点以上得点した者

※対象とする「日本留学試験(EJU)」は、2025年度第1回(6月)、第2回(11月)です。

〈事前の出願資格確認について〉

該当者は出願開始日の1週間前までに出願資格確認をおこなってください。確認をおこなっていない者は、出願することができません。

1. 対象者
  ・一般入試の出願資格⑦⑧に該当する者
  ・特別選抜入試(社会人入試)の出願資格⑦⑧に該当する者
  ・特別選抜入試(外国人留学生入試)の出願資格②③⑦⑧に該当する者

2. 提出書類
  アドミッションセンターにお問い合わせください。

3. 郵送先
  〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘23
  愛知淑徳大学　アドミッションセンター　大学院入試係
  『事前出願資格確認申請書　在中』

4. 結果について
  出願資格確認の結果については、全員に郵送で通知します。出願資格が認められた者には、「愛知淑徳大学出願資格認定書」を同封します。

4 出願手続

出願期間内に入学検定料を払い込み、下記の提出書類を郵便局窓口から「速達・簡易書留」で郵送してください。大学窓口での受付はおこないません。

・出願後（出願書類郵送後）の出願内容の変更・取消は、いかなる理由があっても認めません。
・提出された出願書類、入学検定料等は返還しません。

〔提出書類〕

本学所定用紙は、大学WEBサイトよりダウンロードする。

提出書類	備考
志願票	本学所定用紙
修了（見込）証明書または 学位取得（見込）証明書	出身大学院作成のもの ・学業成績証明書は、出願期間に提出可能な最新のもの ・証明書の氏名が出願時と異なる場合は、改姓・改名の事項が記載された公的証明書（戸籍抄本等）の原本を提出する
学業成績証明書	
研究計画概要	本学所定用紙 （様式A）：文化創造研究科（国文学専修） （様式B）：文化創造研究科（国文学専修以外）、心理医療科学研究科、グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科、ビジネス研究科
履歴書	本学所定用紙（様式C）
業績書	本学所定用紙（様式D）
受験許可書（入学承諾書）	本学所定用紙（様式E） 社会人入試出願者のうち現職者（入学後も継続して勤務する者）は提出
身元保証書	本学所定用紙（様式F） 外国人留学生入試出願者は提出
出願資格認定書のコピー	一般入試出願資格の⑦⑧該当者、社会人入試出願資格の⑦⑧該当者、外国人留学生入試出願資格の②③⑦⑧該当者は提出
修士論文等	【本学以外の大学院において修士の学位を取得した場合のみ提出】 全研究科：修士論文（もしくはそれに相当するもの）のコピー（1部） 文化創造研究科：修士の学位取得後、研究業績のある者は、研究業績（論文または口頭発表資料等）のコピーを1部提出する 心理医療科学研究科：修士の学位取得後、研究業績のある者は、2点以内についてコピーを1部提出する ビジネス研究科：修士論文等の概要を1部提出する

※事前に出願資格確認をおこなった者は、その際に提出した書類については、出願時の提出は不要。
※長期履修学生制度（P.43参照）を希望する者は、出願提出書類の他に長期履修学生制度の申請書類も一緒に提出してください。

〈提出書類についての注意〉

・日本語または英語で作成されたものを提出してください。日本語・英語以外で記載されている場合は、翻訳証明（出身学校、公的機関、翻訳機関等で証明をうけたもの）を添付してください。
・原本が提出できない場合は、大学が原本から正しく複製されたことを証明した Certified True Copy を提出してください。

〔入学検定料〕　**25,000円**

コンビニエンスストアで払い込んでください（P.23参照）。
※出願資格確認を申請した者は、結果通知の到着後に、払い込みをしてください。

〔郵送先〕

〒464-8671　名古屋市千種区桜が丘23
愛知淑徳大学　アドミッションセンター　大学院入試係

5 出願時の注意

長期履修学生制度

心理医療科学研究科とビジネス研究科に出願する者で、長期履修学生制度（P.43参照）を希望する場合は、入学試験出願時に申請してください。

全研究科共通

志　願　票　・左上の整理番号7ケタは、「712+生年月日の月日（4ケタ）」を各自で記入してください（入学検定料払い込みの際にも必要です）。
・専修名は、P.5～7「研究科別各専修概要」を参照してください。

業　績　書　・これまでの研究論文（修士論文あるいはそれに相当するものの内容や、研究テーマに興味を抱いた経緯などを含む）、研究発表、レポート等について具体的に記入してください。
・特記事項がない場合は、その旨を記入して提出してください。

文化創造研究科

事前連絡　受験を希望する者は、事前に希望する指導教員に連絡し、指導内容等について確認してください。

研究計画概要　・国文学専修は手書き可。
・「希望する指導教員名」の欄に、指導を希望する教員名（P.27参照）を記入してください。

業　績　書　作品や参加したコンペ、プロジェクト、制（製）作物等がある場合は、具体的に記入してください（必要に応じて、研究論文等（複写・複製可）の参考資料を添付してください）。

心理医療科学研究科

事前連絡　受験を希望する者は、事前にアドミッションセンターに連絡のうえ、希望する専修の教員と面談し、専修選択の適性について確認してください。

指導教員について　出願時に、指導を希望する専任教員を決めて受験します。指導教員の選択にあたっては、「専任教員の研究領域（P.30～35）」を参考にしてください。

志　願　票　「希望指導教員」の欄に、指導を希望する教員名（P.30～35参照）を記入してください。

研究計画概要　・字数は1,000字程度。
・「希望する指導教員名」の欄に、指導を希望する教員名を記入してください。

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

事前連絡　受験を希望する者は、事前に希望する指導教員に連絡し、指導内容等について確認してください。

研究計画概要　「希望する指導教員名」の欄に、指導を希望する教員名（P.37参照）を記入してください。

ビジネス研究科

事前連絡　受験を希望する者は、事前に希望する指導教員に連絡し、指導内容等について確認してください。

研究計画概要　・字数は1,500字程度。
・「希望する指導教員名」の欄に、指導を希望する教員名（P.37～38参照）を記入してください。

6 選抜方法･配点･試験時間割

・試験開始20分前（面接は15分前）までに試験室に入室してください。
・必要に応じて、各自で昼食を持参してください。各自持参した昼食は、試験室の自席でとってください。
　学内の食堂、売店は営業していません。

【一般入試・特別選抜入試】

研究科	試験時間	試験科目･配点	備考	
文化創造	—	書類審査（50点）		
	10:45 ～ 12:15	専門分野筆記試験（150点）	※試験内容は、各専修で異なる	
	13:15 ～	面接（100点）		
心理医療科学	—	書類審査（50点）		
	9:15 ～ 11:15	外国語試験（英語）（100点）	英和辞典1冊のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可 ※試験内容は、各専修で異なる	
	13:15 ～ ※面接は午前中に実施される場合がある。	面接（50点）	一般	口述試問を含む 修士論文（またはそれに代わるもの）についての質問を含む
			社会人	口述試問を含む
			外国人留学生	口述試問および日本語基礎能力試験を含む
グローバルカルチャー・コミュニケーション	—	書類審査（50点）		
	10:45 ～ 11:45	専門科目試験（50点）		
	13:15 ～	面接（50点）		
ビジネス	—	書類審査（50点）		
	10:45 ～ 11:45	英語試験（100点）	英文ビジネスジャーナル等からの抜粋を和訳する 英和辞典1冊のみ使用可 ただし、電子辞書等機器類の持込不可	
	13:15 ～	面接（100点）		

7 試験会場

愛知淑徳大学　星が丘キャンパス　（P.24参照）

Ⅲ　全課程共通

1 入学検定料払込方法

⚠ お申込みの前に　お申込みの際に、志願票の整理番号（7桁）の入力が必要です。

整理番号メモ（7桁）							

下記のコンビニ端末にてお支払いください

1 端末申込み

セブン-イレブン

マルチコピー機

https://www.sej.co.jp/services/multicopy

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。

TOP画面の**「学び・教育」**より
お申込みください。

学び・教育
↓
入学検定料等支払
▼

LAWSON / MINISTOP

Loppi

https://www.lawson.co.jp
https://www.ministop.co.jp

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。

TOP画面の**「各種サービスメニュー」**より
お申込みください。

「各種申込（学び）」を含むボタン
↓
学び・教育・各種検定試験
↓
大学・短大、専門、小・中・高校等お支払い
▼

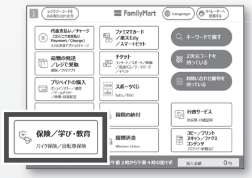
FamilyMart

あなたと、コンビに、
マルチコピー機

https://www.family.co.jp

最寄りの「ファミリーマート」にある「マルチコピー機」へ。

TOP画面の**「保険／学び・教育」**より
お申込みください。



保険／学び・教育
↓
学び・教育
↓
大学・短大・大学院 入学検定料支払いサービス
▼

愛知淑徳大学大学院　をタッチし、申込情報を入力して**「払込票／申込券」**を発券ください。

＊画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 支払い

①30分以内に、コンビニエンスストアの「レジ」でお支払いください。

端末より「払込票」（マルチコピー機）または「申込券」（Loppi、マルチコピー機）が出力されますので、
30分以内にレジにてお支払いください。

＊お支払い済みの検定料はコンビニエンスストアやATMでは返金できません。
＊お支払期限内に検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
＊すべての支払方法に対して検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

払込手数料（税込）		
	入学検定料が5万円未満	550円
	入学検定料が5万円以上	770円

（セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ）

②お支払い後「チケット」と「レシート」の2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」（マルチコピー機）または「払込受領証」（Loppi）。

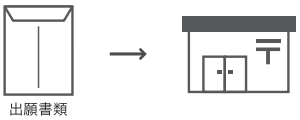
（ファミリーマート）

②お支払い後「受領書（レシート）」をお受け取りください。

3 出願

お支払いが完了しましたら、入試要項などの指示に従って必要書類と共に出願してください。

コンビニで受け取った「取扱明細書」「払込受領証」または「受領書（レシート）」等は出願が完了するまで大切にお手元に控えておいてください。



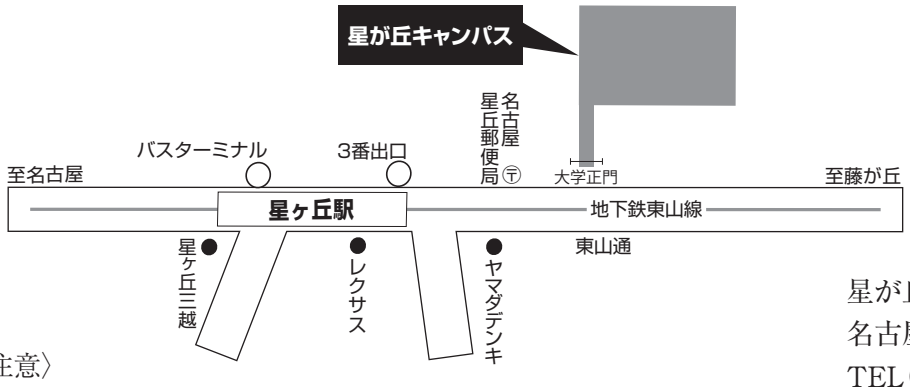
【操作などのお問い合わせ先】 学び・教育サポートセンター　https://e-apply.jp/　＊コンビニエンスストア店頭ではお応えできません。

2 受験票・写真票について

1. 出願者には受験票・写真票を郵送します。受験票が届いたら、記載内容を確認してください。
2. 写真票に写真を貼付してください。写真の裏面には、受験番号と氏名を記入してください。
   （写真：正面・上半身・無背景、縦4cm×横3cm、出願日前3か月以内に撮影したもの）
   ※写真票の写真は、入学後の学生証用写真としても使用します。
3. 試験当日は、受験票・写真票を必ず持参してください。
4. 受験票・写真票が試験日3日前までに届かない場合は、アドミッションセンターに問い合わせてください。
5. 入学試験の成績について開示請求する場合は、受験票の提出が必要になりますので、開示請求受付期間まで保管してください。

3 試験会場（星が丘キャンパス）案内

地下鉄東山線「星ヶ丘駅」3番出口より徒歩約3分



星が丘キャンパス
名古屋市千種区桜が丘23
TEL（052）781-1151（代表）

〈注意〉
- 開門時間は8:30です。
- 試験会場に駐車スペースはありませんので、公共交通機関でお越しください。また、近隣の方の迷惑となりますので、送迎を含め、車での来校は固くお断りします。
- 試験当日は、スクールバスおよびキャンパス間の連絡バスは運行しません。

4 合格発表・入学手続

合格発表

1. 合格発表当日の午前10時に、受験者全員に合否通知書（速達）を星が丘キャンパスから発送します。地域によっては到着までに2～3日かかる場合があります。合格発表日から4日経っても合否通知書が到着しない場合は、必ずアドミッションセンターへ問い合わせてください。
2. 合否結果に関する問い合わせには、応じません。
3. 氏名に旧字体などが含まれている場合は、合否通知書などの表記を常用漢字の代替文字またはカタカナにて対応することがあります。また、一部字体が変更される場合がありますので、ご了承ください。

入学手続

1. 入学手続は、所定の期日までにおこなってください。期日までに手続きをおこなわなかった場合は、入学資格を失います。
   ※第2次手続は、第1次手続を完了した者のみおこなうことができます。
2. 入学手続は、所定の期日までに入学手続時納入金を納入し、「入学手続書類」を提出することによって完了します。入学手続書類については、3月発送予定の「新入生のしおり」でご案内します。
3. 入学手続時納入金についての詳細は、合格通知書に同封する「入学手続要項」を参照してください。「合格通知書」「入学手続要項」の不着・誤配を理由とした締切日後の納入は認めません。
4. 卒業（修了）見込みで受験し合格した者が、「卒業（修了）証明書」を提出できない場合は、入学資格を失います。
5. 入学金を除く授業料、教育充実費、その他徴収金については、指定の用紙に必要事項を記入したうえで2026年3月31日（火）［必着］までに入学辞退の申し出があった場合に限り返還します。
   ※入学手続完了後の入学辞退に関する必要事項は、「入学手続要項」で確認してください。
6. 入学しない場合でも納入された入学金（第1次納入金）は返還しません。

博士前期（修士）課程	博士後期課程	合格発表日	入学手続時納入金締切日	
			第1次手続	第2次手続
4月入学1期	―	2025年10月3日（金）	2025年10月22日（水）	2025年11月12日（水）
4月入学2期	4月入学	2026年2月20日（金）	2026年2月27日（金）	2026年3月24日（火）

●外国人の合格者へ

入学時には「留学」ビザが必要です（ただし、すでに「永住者」「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」「定住者」などの有効な在留資格を持っている方は除きます）。新規で「留学」の在留資格申請が必要な方や、入学までに在留期間更新の手続きが必要な方は、合格通知書を受け取り次第、本学国際交流センターにご連絡ください。

なお、「留学」ビザの手続きが必要な方は、以下のとおり入学手続時納入金を納入してください。

博士前期（修士）課程	博士後期課程	入学手続時納入金締切日	
		第1次手続	第2次手続
4月入学1期	―	2025年10月22日（水）	2025年11月12日（水）
4月入学2期	4月入学	2026年2月27日（金）〔一括納入〕	

＜留学ビザ更新等のために入学許可書が必要な外国人留学生の方へ＞

外国人留学生の合格者で留学ビザ更新等のために入学許可書の発行を希望される方は、下記の書類を本学国際交流センター宛に郵送してください。

1. 第1次および第2次入学手続時納入金の振込金受領書のコピー
2. 誓約書（合格発表日以降、2種類の誓約書をお渡しします）
3. 卒業証明書または修了証明書（出願時に見込証明書で出願された方）
4. パスポートのコピー（写真が貼られているページと過去に日本入国歴がある場合は入国時の在留資格と在留期間がわかるページ）
5. 在留カードのコピー（表と裏の両面）　*所持者のみ

＜「留学」ビザの取得が新たに必要な外国人留学生の方へ＞

外国人留学生の合格者で新たに「留学」ビザの取得を必要とする方は、入学手続書類の他に以下の書類を本学国際交流センター宛に郵送していただくことになりますので、あらかじめお知らせします。

1. 証明写真データ
2. 日本に在留するのに必要な経費支弁能力を証明する文書
3. パスポートのコピー（写真が貼られているページと過去に日本入国歴がある場合は入国時の在留資格と在留期間がわかるページ）
4. 第1次および第2次入学手続時納入金の振込金受領書のコピー
5. 誓約書（合格発表日以降、2種類の誓約書をお渡しします）
6. 卒業証明書または修了証明書（出願時に見込証明書で出願された方）

上記以外に、以下の書類を追加で提出していただくことがありますので、あらかじめ用意しておいてください。

・戸口簿（常住人口登記票）の写し
・最終学歴の証明書
・経費支弁者の課税証明
・経費支弁者の源泉徴収票
・経費支弁者の確定申告書（控え）の写し

※「留学」ビザが取得できなかった場合は、入学資格を失います。

・詳しくは合格通知書に同封する「入学手続要項」にて確認してください。

【本件に関する問い合わせ先】

愛知淑徳大学　国際交流センター

TEL（052）783-1590（直通）　FAX（052）783-1578　　e-mail：asugladm@asu.aasa.ac.jp

5 受験上および修学上の合理的配慮

障がい等のため、受験上および修学上の配慮を必要とする方は、4月入学1期の場合は2025年8月1日（金）、4月入学2期（博士後期課程の4月入学を含む）の場合は2025年12月5日（金）までにアドミッションセンターにご連絡ください。

受験上の配慮に関する一般的な例	補聴器または人工内耳の装用、試験時間中の薬の服用、拡大文字問題冊子配付、チェック解答、点字解答、座席を試験室の出入口付近に設定、別室の設定など

※日常生活において、補聴器、松葉杖、車椅子等を使用している方で、試験当日も同様に使用する場合は、試験場設定等の関係から配慮が必要となりますので、必ず問い合わせのうえ、申請してください。
※出願後の不慮の事故などにより、受験時に配慮を必要とする場合も、速やかに問い合わせてください。

6 問い合わせ先

アドミッションセンター　TEL（052）781−7084（直通）

平日／9:00～17:00
（土・日・祝日、7月25日、8月8日～8月18日、12月25日～1月4日、2月2日、2月4日～2月6日は電話受付をしておりません）

Ⅳ　研究科別特記事項

文化創造研究科

【博士前期・後期課程共通】

専修	教員名	専門分野	博士 前期課程	博士 後期課程
国文学	竹内　瑞穂	国文学（近代）、日本文化史（近代）	○	○
	外山　敦子	国文学（中古）	○	
	中野　謙一	国文学（上代）	○	○
	増井　典夫	日本語学	○	○
	吉田　竜也	国文学（近・現代）	○	
図書館情報学	伊藤　真理	音楽図書館情報学、学校図書館	○	○
	三和　義秀	情報学	○	○
	村主　朋英	図書館情報学	○	○
情報デザイン・システム	親松　和浩	情報科学、原子核物理学、天体物理学、原子炉工学	○	○
	國分　三輝	感性工学、ヒューマンインタフェース	○	○
	佐藤　朝美	教育工学、幼児教育	○	○
	高原　美和	認知心理学、人間工学	○	
	森　博子	交通工学、空間デザイン	○	○
創作表現	小倉　史	映画史、表象文化論	○	
	酒井　晶代	児童文学、児童文化	○	○
	角田　達朗	中国思想史、日本演劇	○	○
	永井　聖剛	日本近代文学	○	○
メディアプロデュース	阿部　卓也	メディア論、記号論、ビジュアル・デザイン	○	
	政倉　祐子	感性心理学、感性工学	○	○
	宮田　雅子	デザイン論、情報デザイン	○	○
	村上　泰介	メディア・アート	○	○
建築・インテリアデザイン	淺田　秀男	建築環境学	○	○
	清水　裕二	建築・都市空間デザイン	○	○
	田島　祐之	構造設計、耐震構造、コンクリート構造	○	○

心理医療科学研究科

【博士前期課程】

指導教員について

臨床心理学専修以外の出願者は、出願時に指導を希望する専任教員を決めてください。指導教員は入学試験時に決定され、原則として途中で変更することは認められません。指導教員の選択にあたっては、「専任教員の研究領域（P.30～35）」を参考にしてください。なお、1名の教員が指導する学生数には上限があります。

臨床心理学専修は、出願時に特定の指導教員を決めず、入学後に決定します。なお、臨床心理学専修の入学者は15名を限度とします。

一　般　入　試

●専門科目試験：基礎は全専修必須の共通問題（研究法ないし調査・統計に関するもの）である。
心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、臨床心理学、社会福祉学Ⅰ（制度・政策系）、社会福祉学Ⅱ（援助技術系）、言語聴覚学（言語心理学、聴覚心理学を含む）、言語聴覚障害学、視覚科学（視知覚心理学を含む）、視能矯正学、スポーツ・健康医科学Ⅰ、スポーツ・健康医科学Ⅱの各分野から、各専修の指定する問題を解答する。

心 理 学 専 修：基礎、心理学Ⅰ、心理学Ⅱの計３題とする。
※心理学Ⅰは、生理・認知心理学、社会心理学、発達心理学のいずれかより出題。
心理学Ⅱは、指導を希望する教員の専門領域より出題。

臨床心理学専修：基礎、臨床心理学、心理学Ⅰの計３題とする。
※心理学Ⅰは、生理・認知心理学、社会心理学、発達心理学のいずれかより出題。

社会福祉学専修：基礎、社会福祉学Ⅰ、社会福祉学Ⅱの計３題とする。

言語聴覚学専修：基礎、言語聴覚学、言語聴覚障害学の計３題とする。

視 覚 科 学 専 修：基礎、視覚科学、視能矯正学の計３題とする。

スポーツ・健康医科学専修：基礎、スポーツ・健康医科学Ⅰ、スポーツ・健康医科学Ⅱの計３題とする。

特別選抜入試

●小　論　文：指導を希望する教員の指定する課題図書について、あらかじめ勉強しておいてください。
（課題図書）　各図書内容に基づいて出題します。

〈2026年度課題図書〉金額は購入先により異なる場合があります。

心理学専修

小川　一美：吉田俊和・橋本剛・小川一美（編）『対人関係の社会心理学』 ナカニシヤ出版　2012年　2,500円+税

加藤　公子：デイヴィッド・イーグルマン（著）／大田直子（訳）『あなたの脳のはなし　神経科学者が解き明かす意識の謎』 早川書房　2019年　940円+税

蒲谷　槙介：グレイアム・ミュージック（著）／鵜飼奈津子（監訳）『子どものこころの発達を支えるもの　アタッチメントと神経科学、そして精神分析の出会うところ』 誠信書房　2016年　3,200円+税

久保南海子：デイヴィッド・プレマック　アン・プレマック（著）／長谷川寿一（監修）／鈴木光太郎（訳）『心の発生と進化：チンパンジー、赤ちゃん、ヒト』 新曜社　2005年　4,200円+税

斎藤　和志：E.B.ゼックミスタ・J.E.ジョンソン（著）／宮元博章・道田泰司・谷口高士・菊池聡（訳）『クリティカルシンキング 入門篇』 北大路書房　1996年　1,900円+税

坂田　陽子：ウォルター・ミシェル（著）／柴田裕之（訳）『マシュマロ・テスト　成功する子・しない子』 早川書房　2015年　1,900円+税

丹藤　克也：太田信夫・厳島行雄（編）『記憶と日常』 北大路書房　2011年　3,600円+税

成澤　元：堀忠雄（編著）『睡眠心理学』 北大路書房　2008年　3,400円+税

平島　太郎：トーマス.W.ヴァレンテ（著）／森亨・安田雪（訳）『社会ネットワークと健康　「人のつながり」から健康をみる』 東京大学出版　2018年　6,600円+税

松尾　貴司 ： エドワード･T.ホール（著）／日高敏隆･佐藤信行（訳）『かくれた次元』 みすず書房　1970年　2,900円+税
吉崎　一人 ： 河原純一郎･横澤一彦（著）『注意　選択と統合』 勁草書房　2015年　3,500円+税

臨床心理学専修

全教員共通 ： 松木邦裕（著）『耳の傾け方　こころの臨床家を目指す人たちへ』 岩崎学術出版社　2015年　2,700円+税

社会福祉学専修

末田　邦子・瀧　誠・谷口　純世 ：
F.P.バイステック（著）／尾崎新･福田俊子･原田和幸（訳）『ケースワークの原則−援助関係を形成する技法−』（新訳改訂版） 誠信書房　2006年　2,000円+税

言語聴覚学専修

天野　成昭 ： 高野陽太郎･岡隆（著）『心理学研究法』（補訂版） 有斐閣　2017年　2,200円+税
井脇　貴子 ： Joanna Hart, Lowenstein 『Artificial Hearing, Natural Speech:Cochlear Implants, Speech Production, and the Expectations of a High-Tech Society（Outstanding Dissertations in Linguistics）』 Routledge　2007年　約13,940円
志村　栄二 ： Joseph R. Duffy 『Motor speech disorders:Substrates, Differential Diagnosis, and Management （4th ed.）』 Mosby, St. Louis　2020年　約9,000円
才藤栄一･植田耕一郎（監修）／出江紳一ほか（編） 『摂食嚥下リハビリテーション』（第3版） 医歯薬出版　2016年　7,600円+税
船﨑　康広 ： 小林春美･佐々木正人（編） 『新･子どもたちの言語獲得』 大修館書店　2008年　2,300円+税
牧　勝弘 ： Brian C. J. Moore（Ed.） 『Hearing （Handbook of Perception and Cognition, Second Edition）』 Academic Press　1995年　約12,758円

視覚科学専修

川嶋　英嗣・高橋　啓介・高橋　伸子 ：
以下の2冊の課題図書について勉強しておいてください。
･Goldstein, E.B.（著） 『Sensation & Perception』 Thomson Wadsworth
2007年以降の版であれば可　約10,000円~20,000円
･Dickinson, C. ･Trillo, A. H. ･Crossland, M.（著） 『Low Vision :Principles and Management』 Elsevier　2022年　約13,000円
田邊　宗子・野上　豪志・望月 浩志 ：
以下の2冊の課題図書について勉強しておいてください。
･丸尾敏夫ほか（編） 『視能学』（第3版） 文光堂　2022年　18,000円+税
･所敬（監修） 『現代の眼科学』 金原出版　2015年(改訂第12版)以降であれば可　7,200円+税

スポーツ･健康医科学専修

加藤　憲 ： 村田幸則･加藤憲（編著）／山内一信（監修） 『病院管理学』 同友館　2019年　2,900円+税
加藤　友紀 ： 日本アミノ酸学会翻訳小委員会ほか（訳） 『タンパク質･アミノ酸の必要量:WHO/FAO/UNU合同専門協議会報告』 医歯薬出版　2009年　5,000円+税
瀬谷　安弘 ： 樋口貴広（著） 『運動支援の心理学−知覚･認知を活かす−』 三輪書店　2013年　3,200円+税
坪田　祐基 ： 石井秀宗（著） 『統計分析のここが知りたい−保健･看護･心理･教育系研究のまとめ方』 文光堂　2005年　2,500円+税
鹿取廣人･杉本敏夫･鳥居修晃･河内十郎（編） 『心理学』（第5版補訂版） 東京大学出版会　2020年　2,400円+税
林　久恵 ： 川村孝 （著） 『臨床研究の教科書:研究デザインとデータ処理のポイント』（第2版） 医学書院　2020年　4,200円+税
小野弓絵（著） 『MATLABで学ぶ生体信号処理』 コロナ社　2018年　3,000円+税
前野　信久 ： 松田博史･朝田隆（編集） 『見て診て学ぶ　認知症の画像診断』（改訂第2版） 永井書店　2010年　10,000円+税
矢野　裕介 ： 岸野雄三（編著） 『体育史講義』 大修館書店　1984年　2,000円+税
稲垣正浩･谷釜了正（編著） 『スポーツ史講義』 大修館書店　1995年　2,000円+税

臨床心理士受験資格について

心理医療科学専攻臨床心理学専修は、「臨床心理士第1種指定大学院」に認定されています。臨床心理学専修に所属する大学院生は大学院修了後、実務経験不要にて受験することができます。

臨床心理学専修の大学院生には臨床心理基礎実習（受講にあたり厳しい面接がおこなわれる）をはじめとする、実習科目の履修と附属研修施設『愛知淑徳大学心理臨床相談室』での研修への参加が義務づけられます。

また、臨床心理士受験資格を得るためには、大学院修了要件以上に単位を修得する必要があります。臨床心理士受験資格の必修科目は、必ずしも夜間（第6限18:30~20:00、第7限20:10~21:40）に開講されるわけではありません。その上、附属研修施設『愛知淑徳大学心理臨床相談室』での研修に多くの時間を注いでいただかなくてはなりませんので、実質的に夜間だけの履修では困難といえます。

公認心理師受験資格について

公認心理師は、国（厚生労働省・文部科学省）が認める国家資格です。2017年9月15日に公認心理師法が施行され、同時に施行規則が公表されています。本学では、心理学部と同時に、心理医療科学研究科心理医療科学専攻臨床心理学専修において、2018年度入学者から受験資格が取得できる新カリキュラムをスタートさせました。公認心理師資格試験の受験資格は、大学と大学院の両方で、それぞれ必要とされる科目を履修することによって得られるものです。大学院修了後に資格試験の受験申請を行うのですが、その時には自分の出身大学が交付する、学部での「科目履修証明書」が必要になります。法施行前に大学に入学していた方たちには、大学が定めている科目の読み替えがなされることになっています。

詳しくは、厚生労働省か文部科学省、もしくは資格試験の実施施設である日本心理研修センターのホームページを参照してください。

【博士前期・後期課程共通】 専任教員の研究領域

心理学専修

小川　一美

○	博士前期課程	○	博士後期課程

対人コミュニケーション（個人対個人のコミュニケーション）に関して、実験や調査という手法を用いた社会心理学的研究をおこなっている。特に、対人コミュニケーションの構成要素（送り手、受け手、メッセージ、チャネルなど）の特徴に着目し、それらが対人関係の様相にもたらす影響の検討、「コミュニケーション力」の測定方法や育成プログラムの開発などに取り組んでいる。

加藤　公子

○	博士前期課程		博士後期課程

ヒトの注意機能、記憶機能について電気生理学的指標を用いた実験的手法により研究を行っている。事象関連電位を記録することで情報の入力から反応出力までの間の脳内情報処理過程を時系列に沿って探り、高次認知機能のメカニズムを検討する。

蒲谷　槙介

○	博士前期課程		博士後期課程

乳幼児期の社会情緒的発達について、アタッチメント理論を主軸に、主として観察的手法による研究を行っている。特に、乳幼児を取り巻く環境の一つである家庭環境（養育者自身の性格的特徴や認知特性など）が子の社会性の初期発達に及ぼす影響について検討している。

久保　南海子

○	博士前期課程	○	博士後期課程

加齢にともなう認知機能と行動的特徴の変化について、実験的な手法による研究を行っている。また、就労や結婚・育児・介護といったライフイベントに関して心理学的視点からの調査研究や、ジェンダー観の生涯発達についても検討している。

斎藤　和志

○	博士前期課程	○	博士後期課程

個人がどのような社会的態度や認識を形成するかは、その対象に対する関心の程度と深く関わっている。こうしたプロセスの個人差に着目し、他者に対する関心=対人的志向性、社会に対する関心=社会的考慮、といった個人差の測定を試みている。また、こうした個人差が現実社会の中の問題（たとえば、社会的迷惑など）とどのように関連しているかを検討し、さらに対人関係や社会を考えようとする態度の形成、ものごとを客観的、理論的にとらえようとするクリティカルシンキング志向の育成などとの関連性についても検討している。

坂田　陽子

○	博士前期課程	○	博士後期課程

人の一生涯にわたる認知の発達的変化過程や変化メカニズムについて実験的手法を用いて解明している。特に乳幼児、大学生、高齢者の視覚的注意を比較検討している。具体的には、①知識の有無と選択的注意との関連性、②刺激の違いおよび知識の多寡と眼球運動との関連性、③顔、表情、視線に対する認知能力と加齢差、の研究を進めている。さらに近年では、デジタルが子どもと高齢者に及ぼす影響も検討している。

丹藤　克也

○	博士前期課程	○	博士後期課程

日常記憶、日常認知研究に広く関心を持っている。特に、目撃証言など法的文脈における記憶・認知の諸問題に対して、認知心理学の視点からアプローチする応用認知心理学的研究を行っている。また、記憶・認知における実行機能のメカニズムや、記憶・認知の個人差に関する研究にも取り組んでいる。

成澤　元

○	博士前期課程		博士後期課程

精神生理学の立場から、ヒトの眠りと生理反応、認知機能、心身状態のかかわりについて検討している。電気生理学的指標を用いて終夜睡眠や仮眠そのものを測定評価するだけでなく、睡眠の主観的評価、就床・起床時の精神状態、日中の眠気、光暴露量や睡眠覚醒リズムなど、覚醒中の睡眠関連指標も研究対象としている。

平島　太郎

○	博士前期課程		博士後期課程

人と人とのつながりである社会的ネットワークに関する社会心理学的研究を行っている。特に、社会的ネットワークの形成過程における心理的要因（社会性やパーソナリティ特性）や、社会生態学的要因に着目している。また、社会的ネットワークが個人に与える影響（精神的健康や孤独感）についても検討している。研究手法としては、質問紙調査・ウェブ調査、面接調査、社会調査データの二次分析などの調査手法を用いている。

松尾　貴司

○	博士前期課程		博士後期課程

コミュニケーションにおける非言語的手がかりの認知および非言語的表出の相互作用について、実験心理学的な手法を用いた研究をおこなっている。研究の基礎としてヒト以外の動物種のコミュニケーション行動にも関心があるが、本学ではヒト以外を対象とする研究環境は用意されていない。

吉崎　一人

○	博士前期課程	○	博士後期課程

ヒトの行動（“注意”等の高次認知機能）のメカニズムについて認知心理学、神経心理学的視点から迫る認知神経心理学的研究をおこなっている。具体的には、①視覚的注意機能の機序、特にトップダウンの処理が関与する機構の解明、②大脳半球機能差と視覚的注意機能の関連性、③認知機能のエイジング、④共行為事態における自己並びに他者に関する情報処理機構の解明、を中心テーマとしている。ヒトの行動を情報処理的な視点で捉えるような志向を持ち、さらにそのような視点で捉えた行動と脳機能との関連性にも関心のある人を求めている。

臨床心理学専修

石川　佳奈

○	博士前期課程		博士後期課程

支援者の支援をテーマに、支援者を対象とした臨床心理学的な援助について主に質的研究法を用いて検討を行っている。現在は、保育領域で働く支援者（保育者）を対象に、臨床心理学的なコンサルテーションの方法や多職種連携のあり方、子ども−親支援について、調査、実践の双方からアプローチを試みている。また、文学作品やアニメーション作品に表現される心のあり様について対象関係論な視点から検討を行い、実際の臨床実践への援用を目指している。

大崎　園生

○	博士前期課程		博士後期課程

犯罪や児童虐待などの被害者に対する理解と心理的援助が主な研究課題である。また臨床心理学的地域援助として、自助グループの支援や発達障害の子どもの保護者や保育者への巡回相談もおこない、コミュニティにおける心理臨床の役割について実践を通して検討している。

清瀧　裕子

○	博士前期課程	○	博士後期課程

子どもや保護者に対する個人心理療法や、学校現場における心理臨床的支援をおこない、事例研究を通じて、問題の理解や援助のあり方を検討している。また、個人内における感情の取り扱いと行動の問題との関連についても関心があり、これまでに、思春期･青年期の摂食障害や自傷行為と感情の問題との関連について、質問紙法を用いた実証的研究によりアプローチをおこなってきている。

髙野　恵代

○	博士前期課程		博士後期課程

人の生涯発達における危機体験と回復過程について、質的研究法を用いて検討を行っている。現在の研究課題は、①障害者家族の家族システムと危機体験およびレジリエンス、②青年期以降の心理的諸問題の理解と心理支援における関係者との連携のあり方、③大学院教育における知能検査修得の効果研究、を行っている。

西出　隆紀

○	博士前期課程	○	博士後期課程

家族システム論や対象関係論の視点から、家族の機能状態と個人の精神的健康との関連を調べている。大量データをもとに多変量解析をおこなう実証的な研究と個々のケースに基づく事例研究の両面からの検討をおこなっているのが特徴である。また、心理療法における技法の工夫にも関心があり、各学派の理論や技法の特徴をどのように融合させたり応用したりすることがクライエントの利益につながるかを、事例検討を中心に研究している。

浜本　真規子

○	博士前期課程		博士後期課程

主に発達障がいを持つ子どもとその保護者を対象に、援助要請に関する研究を行っている。また精神分析的視点から、自閉症スペクトラム障害の人たちの認知世界やパーソナリティ障害の人たちの認知的特徴について理解することに関心があり、事例研究を中心に検討を続けている。一方、臨床実践では、保育園に通う発達障がいの問題を抱える子どもと保育者の支援などを行っている。

社会福祉学専修

末田　邦子　○ 博士前期課程　 博士後期課程

保健医療福祉や障害者福祉分野を中心とするソーシャルワークの歴史に関する研究を行う。特に、それら分野の制度政策史や実践活動史について指導する。

瀧　誠　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

精神障がい者に対する地域生活支援方法と地域サポートシステムのあり方、精神障がい者への回復支援に関する研究について指導する。

谷口　純世　○ 博士前期課程　 博士後期課程

社会的養護におかれている子どもへの生活支援、自立支援、および子どもの養育者に対する家庭支援のあり方に関する研究について指導する。また、社会的養護に求められている、子ども家庭福祉関係者・関係機関と連携して行う地域支援のあり方に関する研究について指導を行う。

言語聴覚学専修

天野　成昭　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

言語の脳内処理過程に関する問題を実験心理学の手法を用いて解明する研究を行う。特に音韻知覚や単語認知などを中心とする音声言語の処理過程に関し、音声の音響的特徴の解析や言語データベースの利用等も行いながら、多角的に科学的真実を探求する心理学的研究を指導する。

井脇　貴子　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

時間差など位相を用いた両耳聴効果についての研究、雑音負荷時の語音聴取能評価による人工内耳・人工中耳や補聴器など補聴機器の音声処理方法や装用効果の研究、聴覚障がい児におけるリテラシーなどの言語発達および自我の発達に関する研究、語音聴取検査法に関する研究、精神物理学的検査と生理学的検査との相関に関する研究について指導する。

志村　栄二　○ 博士前期課程　 博士後期課程

Dysarthria例および摂食嚥下障害例に対する評価や訓練のエビデンス構築に関する研究を行う。

船﨑　康広　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

自閉症スペクトラム障害、ADHD、LDなどの発達障害を有する児（者）の障害や問題の理解、またそれらを改善するための指導や支援の方法等に関する研究について指導する。

牧　勝弘　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

聴覚情報の脳内処理メカニズムについて計算モデル、生理学、および心理学的手法を用いて解明する研究の指導を行う。研究対象の例として、ピッチ、空間、音声、音色に関する聴覚現象が挙げられる。

視覚科学専修

川嶋　英嗣　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

視覚障害の視覚機能特性と行動と癖の関連を実験心理学的手法で検討する。主に、視力・視野等の障害が読みや歩行等の日常生活行動特性に及ぼす影響や、個々の特性に応じた視覚補助具のフィッティングや設計等のテーマについての研究を指導する。

高橋　啓介　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

視空間知覚・奥行き知覚、特に、視空間知覚における視覚的枠組みの効果に関する心理物理学的実験に基づく研究、および色順応、色の恒常性、色のコミュニケーション機能に関する心理物理的実験、調査に基づく研究について指導する。

高橋　伸子　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

視覚実験心理学、特に運動視・形態視機能に関する心理物理学的実験、視野の大きさや視野の形が運動視や形態視に及ぼす影響や時間的・空間的統合機能の測定、評価に関する研究を指導する。

田邊　宗子　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

眼科領域の写真（外眼部写真・眼底写真・前眼部写真等）および画像を使用したものを題材とした研究テーマの指導を行う。

野上　豪志　○ 博士前期課程　　博士後期課程

眼光学領域における研究、とくに眼内レンズ度数計算式の精度評価や新たな計算式の開発に関する研究の指導を行う。

望月　浩志　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

現在利用されている視機能評価のための検査に関する検討と臨床で利用可能な新たな検査方法の確立についての研究を指導する。

スポーツ・健康医科学専修

加藤　憲　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

保健医療を中心とした人々の健康に関連するサービスを評価し、より良いサービスとするための要因、とくに組織や制度に関するヘルスサービス研究について指導する。

加藤　友紀　○ 博士前期課程　　博士後期課程

食品に含まれるたんぱく質は調理、加工または消化、代謝等によってアミノ酸に分解され、味やおいしさと感じられたり、体内に吸収され健康の維持増進に関わっている。疫学的手法や化学分析的手法を用いてそれらの特徴を明らかにする研究を行う。

瀬谷　安弘

○	博士前期課程	○	博士後期課程

心理物理学やスポーツ科学の手法を用いて、眼球運動や身体運動が人の知覚認知機能に及ぼす影響に関する研究に取り組んでいる。加齢に伴う身体運動・知覚認知機能の変化や視知覚に基づく自己運動感覚に関する研究など身体運動と知覚認知機能の関係に関する研究について指導する。

坪田　祐基

○	博士前期課程		博士後期課程

内面的な個人差である性格の規定因や適応との関連について、調査法・認知行動実験パラダイムを用いて検討している。特に、完全主義がいかに適応・不適応と関連するかについての研究を行っている。心理統計や方法論も交えながら多角的な「こころ」の解明を目指した指導を行う。

林　久恵

○	博士前期課程	○	博士後期課程

末梢動脈疾患や糖尿病の進行に伴い出現する足病と運動機能について文献調査を行い、足病患者の歩行能力を維持・改善するための理学療法介入方策に関する研究を行う。介入効果の判定に必要な下肢血行動態・生体力学を考慮した評価法や解析手法についても指導する。

前野　信久

○	博士前期課程	○	博士後期課程

身体の機能や形態を測定する各種検査法や画像診断装置の原理、その実用性や有効性について解説し、様々な適応疾患における生理学的な機能情報および形態的な画像変化について指導する。

矢野　裕介

○	博士前期課程	○	博士後期課程

体育・スポーツ・武道が、どのような歴史的・社会的条件のもとで発展してきたのか、またそれぞれの時代（社会）の中においてどのような役割を果たしてきたのかについて検討していくことを通して、体育・スポーツ・武道文化の現在を考究する。

健康栄養科学研究科

研究領域と内容

植村　和正

糖尿病等の生活習慣病を有する患者の健康寿命を延伸し高いQOLを維持するためには、個々の病態に応じた治療介入や心理社会的側面に配慮した生活指導が重要であるが、それらをいかになすべきか、またどうあるべきかを明らかにする研究を行う。

糖代謝に関する生理学的研究も希望すれば指導する。

榎　裕美

超高齢社会の我が国では、国民の健康寿命を延伸し高いQOLを維持するために、生活習慣病の発症予防および重症化予防、さらには高齢者の低栄養予防やフレイル予防も視野に入れた施策が行われている。成人期および高齢期の栄養管理についての課題及び問題解決に向けた医療･福祉･介護の視点から栄養ケア･マネジメントに関する研究を行う。

武山　英麿

健康長寿社会における安全で健やかな食生活を確保するための望ましい環境のあり方を探求することを主要な研究テーマとする。そのため、食を取り巻く環境を生物化学並びに社会的な幅広い視点で捉え、食環境要因と健康の保持･増進および疾病予防に関わる各指標との関連を明らかにするなどの研究を行う。

東山　幸恵

代謝性疾患や循環器系疾患、消化管疾患等の治療には適切な栄養評価に基づく栄養介入が重要である。これらの疾患に対する妥当な栄養評価法を探究し、効果的な栄養管理法の検討をテーマとした研究を行う。さらに重症心身障害児をはじめ、特別な支援が必要な小児の栄養管理に関する研究も希望に応じて指導する。

山本　博之

食品中には様々な成分が含まれており、一部の成分は生体機能を調節する。一方、細胞は分化により独自の機能を獲得して身体の調節に関わる。そこで、細胞の分化に影響を与える新しい食品由来の機能性成分を探索し、生化学の視点から機能性成分が作用を発揮する仕組みを明らかにする研究を行う。

百合草　誠

オーラルフレイルは、高齢者の健康と生活の質に深刻な影響を及ぼしている。そこで、高齢者のオーラルフレイルに対して、適切な介入を行うためのスクリーニングツールや口腔リハビリテーションプログラムの開発に関する研究を行う。

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

【博士後期課程】

教員名	専門分野
太田　直子	アメリカ文学
太田　浩司	集団間コミュニケーション
小沢　茂	英語圏文学
樗木　勇作	英語学
杉本　一直	ロシア文学・文化
馮（フォン）　富縈（フーロン）	言語心理学、対照言語学、応用言語学
福本　明子	異文化コミュニケーション、コミュニケーション
藤井　真湖	文化人類学、フォークロア研究
McGEE（マギー）, Jennifer（ジェニファー） J.	Mediated Communication
MOLDEN（モルデン）, Danny（ダニー） T.	Rhetoric and Argument／Debate
山本　裕子	日本語学・日本語教育
若山　真幸	理論言語学、言語類型論

ビジネス研究科

【博士前期・後期課程共通】
演習担当者の研究・指導領域

アカウンティング専修

西崎　賢治　○ 博士前期課程　　博士後期課程

企業の財務分析について、複数の先行研究をサーベイした後、ケーススタディとして具体的な企業を取り上げつつ研究指導する。日本企業をはじめ、担当者の主要研究対象である中国企業についてもアカウンティングの視点を中心に取り上げる。

三浦　克人　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

管理会計分野の指導を行う。主要なテーマは、分権的組織における管理会計技法（内部振替価格、事業部の業績評価指標、事業部の損益計算書・貸借対照表など）である。

森　洵太　○ 博士前期課程　　博士後期課程

会計基準のコンバージェンスやIFRS（国際財務報告基準）がわが国の会計制度に与える影響など、財務報告制度の国際化が会計実務にもたらすインパクト及び問題点について指導する。

マネジメント＆エコノミー専修

浅井　敬一朗　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

ものづくり中小企業を対象に、①探索と深化について、社外連携の「場」のあり方、②組織間フリクション解決、③事業承継問題などについてヒアリング調査を中心とした質的研究を中心に指導する。

新井　享　○ 博士前期課程　　博士後期課程

情報の送り手側が、情報の受け手に対して、いかに効率的に情報を伝達し、説得をするかという課題について、メディア・プランニングの観点から、SNSなどとの組み合わせを考察しながら指導する。

石坂　綾子　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

現代のドイツ金融業を中心に、先行研究のサーベイを行うとともに、国際通貨協力や国際金融機関、ヨーロッパ通貨統合などの関連について、論文指導を行う。

大塚　英揮　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

流通チャネルやマーケティングに関わる行為秩序が、異なる利害、分散する知識状況の中で、いかにして形成されるのか。その行為秩序形成の論理を、知識論（新オーストリー派経済学、サービスドミナントロジック、知識社会学）の視点をベースに研究、指導する。

鈴木　崇文　○ 博士前期課程　　博士後期課程

財政・公共経済学の理論から実証研究までを対象とし、特に税制や財政政策が企業活動・ビジネスに与える影響を多面的に考察する。実証研究では、実データを用いた計量経済学的手法を駆使し、政策効果を定量的に検証するための方法を指導する。

藤木　美江　○ 博士前期課程　　博士後期課程

統計的データ分析の入門から多変量解析までを学び、それと並行して、マーケティングリサーチにおける新しい調査手法、分析手法の探索を行う。それらをビジネス課題へ応用し、実用的なデータ解析を指導する。

三矢　幹根　○ 博士前期課程　　博士後期課程

株式投資・トレードに関する（1）体系的な理論と（2）実践に落とし込むための株式投資・トレードに関する実践ルールの作り方を（1）演繹的手法と（2）帰納的手法の両方により指導する。具体的には、どのように株式相場を観測し、どのような閃きを得て、そこからどのように仮説を立て、その仮説をどのように検証し、修正を加えながらルールの完成度を高めていく実践的方法について指導する。

渡邉　聡　○ 博士前期課程　○ 博士後期課程

環境・資源経済など経済学の応用研究をベースに、先行研究のサーベイに基づく理論研究と実証研究の指導を進める。具体的には、（1）持続可能性の経済学関連の研究、（2）ビジネスの持続可能性と経済性の関係に関する研究などを対象とする。

V　学納金

【博士前期課程（修士課程）】

■文化創造研究科　国文学専修／図書館情報学専修／情報デザイン･システム専修／
創作表現専修／メディアプロデュース専修

■教育学研究科

■心理医療科学研究科　心理学専修／社会福祉学専修／言語聴覚学専修／視覚科学専修／
スポーツ･健康医科学専修

■グローバルカルチャー･コミュニケーション研究科

■ビジネス研究科

（単位：円）

入学手続時納入金				後期（10月）納入金	
第1次納入金		第2次納入金			
入学金※1	180,000	前期授業料	275,000	後期授業料	275,000
		前期教育充実費	25,000	後期教育充実費	25,000
		後援会入会金※2	5,000	後期後援会費	5,000
		前期後援会費	5,000		
計	180,000	計	310,000		
計	490,000			計	305,000
合計	795,000				

■文化創造研究科　建築･インテリアデザイン専修

（単位：円）

入学手続時納入金				後期（10月）納入金	
第1次納入金		第2次納入金			
入学金※1	180,000	前期授業料	275,000	後期授業料	275,000
		前期教育充実費	35,000	後期教育充実費	35,000
		後援会入会金※2	5,000	後期後援会費	5,000
		前期後援会費	5,000		
計	180,000	計	320,000		
計	500,000			計	315,000
合計	815,000				

■心理医療科学研究科　臨床心理学専修

（単位：円）

入学手続時納入金				後期（10月）納入金	
第1次納入金		第2次納入金			
入学金※1	180,000	前期授業料	300,000	後期授業料	300,000
		前期教育充実費	25,000	後期教育充実費	25,000
		後援会入会金※2	5,000	後期後援会費	5,000
		前期後援会費	5,000		
計	180,000	計	335,000		
計	515,000			計	330,000
合計	845,000				

■健康栄養科学研究科

（単位：円）

入学手続時納入金				後期（10月）納入金	
第1次納入金		第2次納入金			
入学金※1	180,000	前期授業料	300,000	後期授業料	300,000
		前期教育充実費	35,000	後期教育充実費	35,000
		後援会入会金※2	5,000	後期後援会費	5,000
		前期後援会費	5,000		
計	180,000	計	345,000		
計	525,000			計	340,000
合計	865,000				

【博士後期課程】

■文化創造研究科　国文学専修／図書館情報学専修／情報デザイン・システム専修／
創作表現専修／メディアプロデュース専修

■心理医療科学研究科

■グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

■ビジネス研究科

（単位：円）

入学手続時納入金				後期（10月）納入金	
第1次納入金		第2次納入金			
入学金※1	180,000	前期授業料	200,000	後期授業料	200,000
		前期教育充実費	25,000	後期教育充実費	25,000
		後援会入会金※2	5,000	後期後援会費	5,000
		前期後援会費	5,000		
計	180,000	計	235,000		
計	415,000			計	230,000
合計	645,000				

■文化創造研究科　建築・インテリアデザイン専修

（単位：円）

入学手続時納入金				後期（10月）納入金	
第1次納入金		第2次納入金			
入学金※1	180,000	前期授業料	200,000	後期授業料	200,000
		前期教育充実費	35,000	後期教育充実費	35,000
		後援会入会金※2	5,000	後期後援会費	5,000
		前期後援会費	5,000		
計	180,000	計	245,000		
計	425,000			計	240,000
合計	665,000				

※1　入学金は、下記の者に限り免除されます。

①愛知淑徳大学の学部入学から8年以内（ただし、編入学した学生は大学学則第6条第2項に規定する在学年数以内）に愛知淑徳大学大学院博士前期課程または修士課程に入学する者（年数には休学期間も含む）

②愛知淑徳大学大学院博士前期課程または修士課程に入学してから、4年以内に愛知淑徳大学大学院博士後期課程に入学する者（年数には休学期間も含む）

※2　後援会入会金は、愛知淑徳大学学部入学から8年以内に大学院に入学する者、および愛知淑徳大学大学院博士前期課程または修士課程入学から4年以内に博士後期課程に入学する者に限り徴収しません。

〈注〉・後援会は、全員加入です。後援会に代わり、大学が入会金および会費を一旦徴収します。2年次以降は会費のみで、年間10,000円になります。
・入学手続時納入金請求の際には、学生教育研究災害傷害保険（入学者全員加入）の保険料〔前期課程・修士課程（2年間分）1,400円（予定）、ただし心理医療科学研究科・健康栄養科学研究科は1,440円（予定）。後期課程（3年間分）2,100円（予定）、ただし心理医療科学研究科は2,150円（予定）〕を併せて徴収します。

外国人留学生の授業料減免について

入学後、「愛知淑徳大学私費外国人留学生授業料減免に関する規程」に基づく選考により、外国人留学生の授業料を30%を限度として減免する制度があります。

Ⅵ　奨学金

本学学生に貸与および給付される奨学金の主なものは、下記のとおりです。

1.　日本学生支援機構奨学金（2025年度実績）

種　類		貸与金額		申込
第一種（無利子貸与）	修士課程、博士前期課程	50,000円、88,000円から選択		4月、9月
第一種（無利子貸与）	博士後期課程	80,000円、122,000円から選択		
授業料後払い（無利子貸与）	修士課程、博士前期課程	授業料支援金	授業料相当額（上限60万円／年　※所属により異なる）	入学後、直近の募集
		生活費奨学金	0円（利用しない）、20,000円、40,000円から選択	
第二種（有利子貸与）	修士課程、博士前期・後期課程	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から選択		4月、9月

2.　愛知淑徳大学大学院学資援助（2025年度実績）

奨励給付奨学金

奨学金の種類		対象者	採用人数	給付額（年額）	選考基準	経済条件	備考
奨励給付奨学金1	第一種	大学院博士前期課程・修士課程の在学生で、特に学業優秀な者。ただし、特別選抜入試で入学した者は除く。	各学年16名	60万円	各研究科にて決定する。	―	標準修業年限の範囲内で在学中2回まで。
	第二種	大学院博士前期課程・修士課程の在学生で、学業優秀な者。ただし、特別選抜入試で入学した者は除く。	各学年16名	30万円	各研究科にて決定する。	―	標準修業年限の範囲内で在学中2回まで。
奨励給付奨学金2	大学院博士後期課程	大学院博士後期課程の在学生で、特に学業優秀な者。ただし、本学博士前期課程または修士課程からただちに入学または進学した者に限る。	各学年4名	40万円	各研究科にて決定する。	―	標準修業年限の範囲内で在学中3回まで。

特別給付奨学金 ※留学生は対象外

奨学金の種類		対象者	採用人数	給付額（年額）	成績条件	経済条件	備考
特別給付奨学金1（経済支援）		入学後半年以上経過した大学院生。経済的理由により、就学が困難な者。	4名	20万円	単位上の基準はないが、標準修業年限（長期履修生は許可された長期履修期間）を超えることなく修了の見込みがある者。	家計支持者又は学費支弁者の年間所得合計から別に定める家計控除を差し引いた額が250万円以下となる者。	在学中1回とする。奨励給付奨学金1又は2を受給している場合は不可。
特別給付奨学金2	死亡・疾病・失業・破産（緊急支援）	大学院生（1年生前期も可）。主たる家計支持者の死亡、疾病、失業、破産（入学後に発生した事由を対象とし、申請時1年以内の事情に限る）により、経済的に就学が困難な者。	若干名	50万円	単位上の基準はないが、標準修業年限（長期履修生は許可された長期履修期間）を超えることなく修了の見込みがある者。	主たる家計支持者の死亡、疾病、失業、破産による家計急変者。	同事由に対しては、在学中1回とする。
	被災（災害支援）	大学院生（1年生前期も可）。主たる家計支持者の地震・風水害等の被災（入学後に発生した事由を対象とし、申請時1年以内の事情に限る）により、経済的に就学が困難な者。	若干名	20万円	単位上の基準はないが、標準修業年限（長期履修生は許可された長期履修期間）を超えることなく修了の見込みがある者。	主たる家計支持者の被災による家計急変者。	同事由に対しては、在学中1回とする。

3.　その他の奨学金

地方公共団体や民間団体による奨学金制度は、随時案内します。

Ⅶ　長期履修学生制度

一部の研究科で長期履修学生制度を実施しています。

長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により時間的制約があり、本来の標準修業年限（修士課程・博士前期課程2年、博士後期課程3年）では履修が困難と認められる者について、長期履修学生として標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に履修することを可能とする制度です。

実施している研究科は、教育学研究科、心理医療科学研究科（臨床心理学専修は博士後期課程のみ）、健康栄養科学研究科、ビジネス研究科です。

詳細は大学WEBサイトでご確認ください。

https://www.aasa.ac.jp/examination/gra_exam/index.html

Ⅷ　成績開示について

入学試験の成績については、受験者本人から請求があった場合に開示します。成績開示を希望する受験者は、以下の要領で申し込んでください。

1. 開示請求受付期間
   2026年4月1日（水）～4月24日（金） 締切日消印有効
2. 申請者
   受験者本人に限ります（代理人による申請は不可）。
3. 開示内容
   受験科目または評価項目ごとの得点、総得点、満点値
4. 提出書類
   （1）入学試験成績開示請求書：大学WEBサイトより、3月下旬からダウンロードできます。
   （2）受験票：コピー不可
   （受験票を紛失した場合は、運転免許証、学生証、健康保険証などのコピーを同封してください。）
   （3）開示書送付料：郵便定額小為替 500 円分（「指定受取人」欄の記入は不要）
   （4）住民票の写し：送付先の住所が出願時の住所と異なる場合のみ、送付先が記載された住民票を提出してください。送付先の確認をします。
5. 申し込み方法
   ＜郵送の場合＞
   「簡易書留」でアドミッションセンター宛に郵送してください（封筒に「入学試験成績開示請求」と朱書きする）。
   ＜持参の場合＞
   アドミッションセンターに提出してください（受付：平日/9:00～17:00）。
6. 開示方法
   「簡易書留」にて入学試験成績開示請求書記載の住所に「入学試験成績開示書」を郵送します（5月中旬予定）。提出した受験票は、成績開示書とともに返却します。
7. 書類の郵送先・問い合わせ先
   愛知淑徳大学　アドミッションセンター
   〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘23　TEL（052）781−7084（直通）

Ⅸ　入試結果

2025年度　4月入学

【博士前期課程（修士課程）】

研究科	専　攻	入試区分	志願者数				受験者数				合格者数			
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計
文化創造	文化創造	1期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2期	2	0	0	2	2	0	0	2	1	0	0	1
教育学	発達教育	1期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2期	1	1	0	2	1	1	0	2	0	1	0	1
心理医療科学	心理医療科学	1期	18	0	0	18	17	0	0	17	9	0	0	9
		2期	5	1	0	6	3	1	0	4	0	1	0	1
健康栄養科学	健康栄養科学	1期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グローバルカルチャー・コミュニケーション	グローバルカルチャー・コミュニケーション	1期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2期	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1
ビジネス	ビジネス	1期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【博士後期課程】

研究科	専　攻	志願者数				受験者数				合格者数			
		一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計
文化創造	文化創造	1	—	—	1	1	—	—	1	1	—	—	1
心理医療科学	心理医療科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グローバルカルチャー・コミュニケーション	グローバルカルチャー・コミュニケーション	0	—	—	0	0	—	—	0	0	—	—	0
ビジネス	ビジネス	0	—	—	0	0	—	—	0	0	—	—	0

Ⅹ　過去の入試問題について

過去3年間分の入試問題を大学WEBサイトで公開しています。ただし、受験者がいなかった場合は、公開できません。閲覧にはパスワードが必要です。

URL：https://www.aasa.ac.jp/examination/past.html

パスワード：kakomon

不正行為の取り扱いについて

愛知淑徳大学では、入学試験を厳正に実施し、すべての受験者が公平・公正に受験できるよう、以下の注意事項を定めています。本学の受験に際しては、この注意事項を熟読のうえ、真剣な態度で試験に臨んでください。

1. 不正行為の取り扱いについて

不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、当日それ以降の受験はできなくなります。失格となり、受験したすべての教科・科目の成績を無効とします。その場合、入学検定料は返還しません。試験終了後に不正行為が発覚した場合も、同様に取り扱います。なお、不正行為については、状況により警察へ被害届を提出するなどの対応をとる場合があります。

2. 次のことをすると不正行為となります。

①出願書類や解答用紙へ故意に虚偽の記入をすること。
②カンニング（試験時間中に試験の教科・科目に関するメモや参考書等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること等）をすること。
③他の受験者に答えを教えたり、カンニングの手助けをすること。
④試験時間中に問題冊子、解答用紙を試験室から持ち出すこと。
⑤「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
⑥試験時間中に使用が許可されていないもの（携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチやスマートグラス等）、タブレット端末、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン・ヘッドホン等の電子機器類や耳栓、定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む）、コンパス、電卓、電動式鉛筆削り、下敷き）を使用すること。
⑦「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり、解答を続けること。
⑧面接試験・プレゼンテーション試験において試験前に、控室等で携帯電話等の電子機器類を使用すること。
⑨面接試験・プレゼンテーション試験において試験前に、すでに試験が終了した他の受験者から試験に関する内容を教えてもらうこと。
⑩面接試験・プレゼンテーション試験において試験後に、これから試験を受ける他の受験者に試験に関する内容を教えること。

3. 次のことをすると不正行為となる場合があります。

①試験時間中に、使用が許可されていないもの（携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチやスマートグラス等）、タブレット端末、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン・ヘッドホン等の電子機器類や耳栓、定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む）、コンパス、電卓、電動式鉛筆削り、下敷き）をかばん等にしまわず、身に着けていたり手に持っていたりすること。
②試験時間中に、携帯電話や時計の音（着信・アラーム・振動音等）を長時間鳴らす等、試験の進行に影響を与えること。
③試験に関することについて、自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申し出をすること。
④面接試験・プレゼンテーション試験において試験前に、控室等で携帯電話等の電子機器類を身に着けていたり手に持っていたりすること。
⑤試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
⑥試験場において監督者等の指示に従わないこと。
⑦その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

入試に関する生成AI（ChatGPTなど）の取り扱いについて

入学者選抜において、出願時に提出する書類（「志望理由書」「課題レポート」「自己アピール書」など）については、生成AIによって作成されたものを受験者独自の成果物とはみなしません。よって、生成AIに関する指示がない限り、入学者選抜において受験者が生成AIを使用することは認めません。

愛知淑徳大学

問い合わせ先

アドミッションセンター　TEL（052）781−7084（直通）

平日／9:00〜17:00

※土・日・祝日、7月25日、8月8日〜8月18日、12月25日〜1月4日、2月2日、
2月4日〜2月6日は電話受付をしておりません。

https://www.aasa.ac.jp/

試験当日の問い合わせ先　▶星が丘キャンパス　TEL（052）781-1151（代表）